

SUMCO

CSR報告書 2019



Top Message



代表取締役 会長兼 CEO 橋本 眞幸



代表取締役 社長兼 COO 降屋 久

SUMCO ビジョン

- ① 技術で世界一の会社
- ② 景気下降局面でも赤字にならない会社
- ③ 従業員が生き活きとした利益マインドの高い会社
- ④ 海外市場に強い会社

平成 30 年北海道胆振東部地震や西日本豪雨をはじめ、2018 年に発生した自然災害により被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当社千歳工場（北海道千歳市）も、北海道胆振東部地震では震度 6 弱の揺れに見舞われ、人的被害こそなかったものの、一部生産ラインの停止という被害を受けました。しかしながら当社従業員による懸命の復旧作業に加え、お客様やお取引先の皆様など関係各位からの多大なるご支援もあり、地震発生の翌月には通常操業に復帰することができました。今般の地震で得た教訓は、SUMCO グループの BCP（事業継続計画）の改善に活かしてまいります。

良き企業市民であることを目指して

スマートフォンやパソコンなどの情報端末をはじめとして、大量の情報を処理・保存する通信機器やデータセンター、テレビ・エアコンなどの家電製品、自動車や電車といった乗り物に至るまで、私たちの生活のあらゆる場面で、半導体デバイスが使われています。その半導体デバイスの基幹材料であるシリコンウェーハは、私たちの生活を支える欠かせない存在だと言えるでしょう。

SUMCO グループは、シリコンウェーハの生産と供給を通して、産業の発展と人々の生活の質の向上に貢献するという理念のもと、「良き企業市民」であることを目指して、「SUMCO CSR 方針」に基づき、CSR 活動に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

SUMCO グループは、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を通して、経営の公正性、効率性、透明性の確保を図っています。

当社は、2019 年 3 月より、取締役会の構成を、監査等委員でない取締役が 4 名、監査等委員である取締役が 5 名（うち独

立社外取締役が 4 名）の体制とし独立社外取締役の比率を高めました。これにより、経営体制の効率化を図るとともに、業務執行に対する監査・監督機能を強化することができると考えています。

なお、当社の独立社外取締役には、弁護士、公認会計士の資格を持つ経営コンサルタント、行政分野・企業経営の経験者、ならびに金属素材分野研究の専門家を選任しております。多様なバックグラウンドに基づく幅広い知見・見識を取り入れ、取締役会において当社の持続的成長と中長期的な企業価値向上に資する議論を活発に行っています。

コンプライアンス

当社は、役員・従業員が守るべき行動基準として「SUMCO 行動憲章」を制定し、実施しています。

「SUMCO 行動憲章」は、法令遵守に加えて、公正な事業活動、反社会的勢力との関係遮断など、広く企業が守るべき社会規範もその内容としています。

SUMCO グループ各社においても同等の行動憲章を制定し

実施しており、今後ともグループ全体として社会良識に則した健全な企業活動を遂行してまいります。

リスクマネジメント

SUMCO グループの世界シェアは約 3 割です。SUMCO グループは世界の主要な半導体メーカーのすべてに高品質シリコンウェーハを供給しており、製品の安定供給は経営の最重要課題であるとともに、社会に対する責務であると考えています。

当社は、安定供給の確保に向けたリスク対策を図るとともに、サプライチェーン全体での事業継続計画の整備・改善を進めています。

環境保全の取組み

シリコンウェーハの製造には、多量の電力・水・化学物質が必要です。このため、SUMCO グループは環境目標を設定し、電力・水・化学物質の使用量、産業廃棄物の排出量の削減に取り組んでいます。

また、有害な化学物質や廃棄物の管理を徹底し、環境リスクの最小化に努めています。

健康経営への取組み

当社では、2017 年より「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念のもと、従業員の健康を重要な経営資源の一つとらえ、「健康経営」への取組みを強化しています。

2019 年 2 月には「健康経営優良法人 2019（ホワイト 500）」（大規模法人部門）に、当社をはじめ SUMCO グループ 7 社が認定されました。

SUMCO グループは、今後とも様々な CSR 活動を推進するとともに、ステークホルダーの皆様との様々な対話を通じて把握したご意見・ご要望を積極的に経営に取り入れ、SUMCO グループを支えていただいているステークホルダーの皆様に対する社会的責任を果たしてまいります。

ステークホルダー関係図

当社は事業活動を支えていただいているステークホルダーの皆様に対して、企業としての責任を果たしていきます。



ステークホルダーの皆様に対する主な責任

お客様に対して

- ・顧客満足度の向上（製品やサービスの品質の維持・向上）

株主様に対して

- ・利益還元（配当等）
- ・企業価値の向上

お取引先に対して

- ・公正な取引
- ・強固で良好なサプライチェーンの構築

従業員に対して

- ・雇用の確保
- ・利益還元（賞与等）
- ・職場環境の整備（メンタルヘルス、育児・介護休暇）

地域社会に対して

- ・雇用の創出・納税
- ・地域環境整備
- ・地域教育活動支援

目次・編集方針

CONTENTS

Top Message	1	リスクマネジメント	15
目次・編集方針	3	環境に配慮した企業活動	17
SUMCOグループの概要	4	迅速、正確かつ公平な会社情報の開示	24
私たちの生活を支えるSUMCOの製品	5	品質と信頼性の追求	25
SUMCOビジョン	7	サプライチェーン	27
特集「SUMCOグループの事業活動と 持続可能な開発目標(SDGs)」	9	人権の尊重	29
		安全・健康衛生への取り組み	32
コーポレート・ガバナンス	11	地域に根差した社会貢献活動	35
コンプライアンス	13	サイトデータ	38

編集方針

本報告書は、SUMCOグループのCSRに関する考え方や取組みについて、ステークホルダーの皆様にご報告し、ご理解いただくことを目指しています。本報告書の作成にあたっては、GRI (Global Reporting Initiative) 「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」の内容を一部参考としています。

報告対象期間

2018年1月～2018年12月

報告対象期間が上記と異なる場合は、個別に注記します。

報告対象組織

株式会社SUMCOおよびそのグループ会社を対象としています。本報告書で、「当社」と記載している場合は、株式会社SUMCOを表しています。主要財務データは、株式会社SUMCOおよびその連結子会社を対象としています。その他の実績データの対象範囲は個別に注記しています。

発行年月

2019年6月

見通しに関する注意事項

本報告書に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際は、様々な要因の変化により、記載された見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

SUMCOグループの概要

(2019年4月1日現在)

会社概要

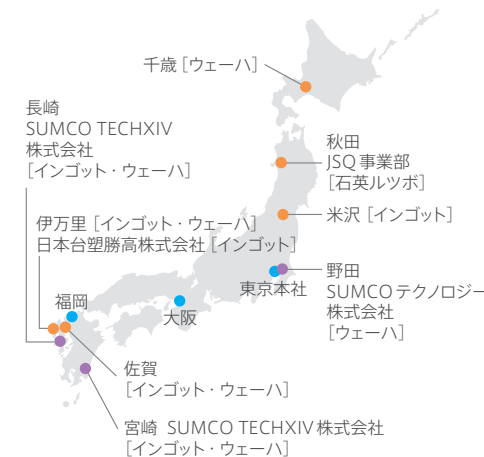
商号	株式会社SUMCO	資本金	138,718百万円
本社	東京都港区芝浦一丁目2番1号	代表者	代表取締役 会長兼 CEO 橋本 真幸
設立	1999年(平成11年)7月30日	グループ会社	国内7社、海外10社
主要事業	半導体用シリコンウェーハの製造・販売		

グループ会社

国内	海外	
SUMCO TECHXIV 株式会社	SUMCO Phoenix Corporation	SUMCO Singapore Pte.Ltd.
SUMCO テクノロジー株式会社	SUMCO Southwest Corporation	SUMCO Korea Corporation
SUMCO サービス株式会社	SUMCO Personnel Services Corporation	SUMCO Taiwan Technology Corporation
SUMCO サポート株式会社	SUMCO Europe Sales Plc	SUMCO Shanghai Corporation
SUMTEC サービス株式会社	PT. SUMCO Indonesia	FORMOSA SUMCO TECHNOLOGY CORPORATION
SUMCO 保険サービス株式会社		
日本台塑勝高株式会社		

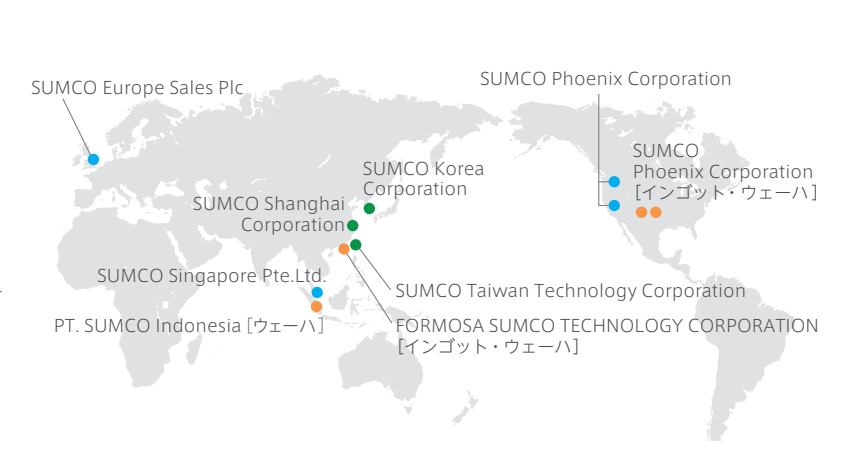
国内ネットワーク

●販売拠点 ●製造拠点 ●主要関係会社

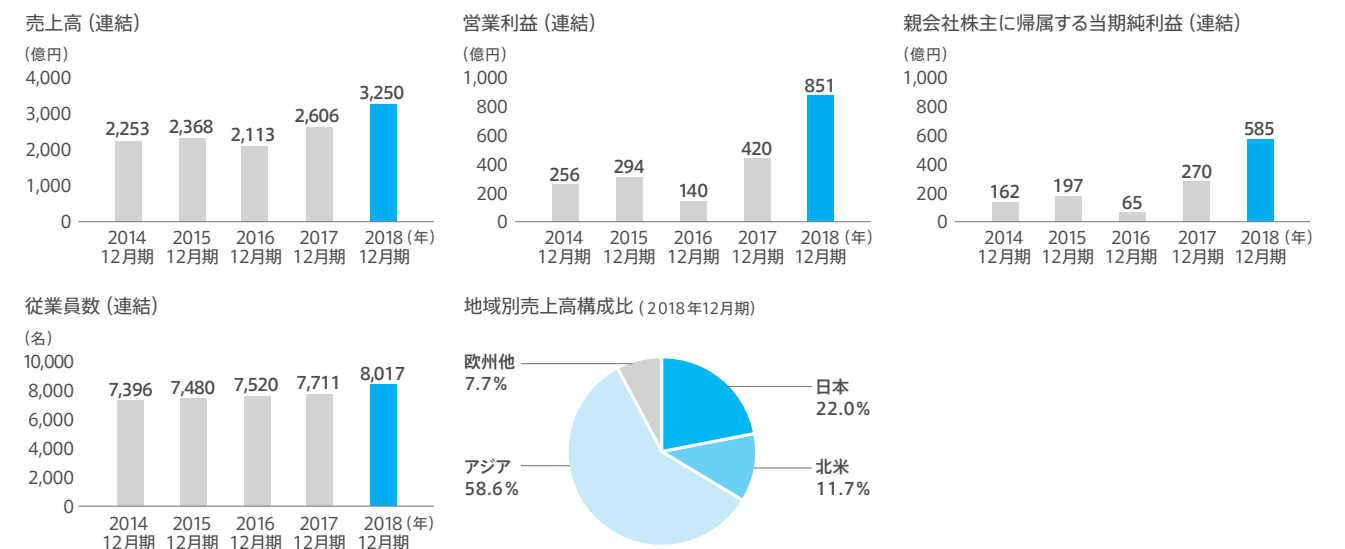


海外ネットワーク

●販売拠点 ●製造拠点 ●技術サポート拠点



主要財務データ



私たちの生活を支える SUMCO の製品

SUMCO は、半導体デバイスの基幹材料となるシリコンウェーハをつくっています。

SUMCO のシリコンウェーハを用いた半導体デバイスは、

私たちの身近にある携帯電話、パソコン、スマートフォン、デジタル家電等の電子機器、自動車や医療機器、

産業用機械の制御装置のみならず、交通機関や公共インフラの制御に至るまで、幅広く私たちの生活を支えています。



自動車

自動車の内部では、数多くの半導体デバイスが機能しています。電気自動車 (EV) やハイブリッド車 (HV・PHV) のモーター制御や、自動運転・自動ブレーキ・車線キープ機能といった運転支援システムに使われるシリコンウェーハには、きわめて高い品質・信頼性が要求されます。



データセンター
(サーバールーム)

スマートフォンやパソコンの高機能化に伴い、高画質の写真や動画など膨大なデータがクラウド・コンピューティングで処理され、データセンターに保存されています。膨大な情報を保存し処理するメモリーやロジックには、SUMCO の高精度最先端シリコンウェーハが使われています。



電車・新幹線

電力の制御を行うパワー半導体と呼ばれるデバイスは、技術的にも複雑で、大電力の確実な制御や省電力性能が求められる、特殊な領域です。特に、電車など 1000V を超える重電分野での電源制御では、シリコンウェーハにも特殊なノウハウが求められます。



医療機器

医療の分野では、高精細な画像診断装置や精緻なコントロールが可能な手術用ロボットといった医療機器が進化を続けています。人命に関わるこれらの医療機器にも多くの半導体がい用いられており、その基板となるシリコンウェーハには高い信頼性が求められます。医療の進歩にも、SUMCO のシリコンウェーハが貢献しています。



発電施設・公共インフラ



IC カード機器



スマートフォン
タブレット・パソコン

通信機器には、電子メールやインターネットの閲覧など各種アプリケーションを動かすためのロジック、イメージセンサー、データを保存するためのメモリーなど、多くの最先端の半導体が使われ、年々高機能化しています。これらの半導体に SUMCO のシリコンウェーハが使われています。



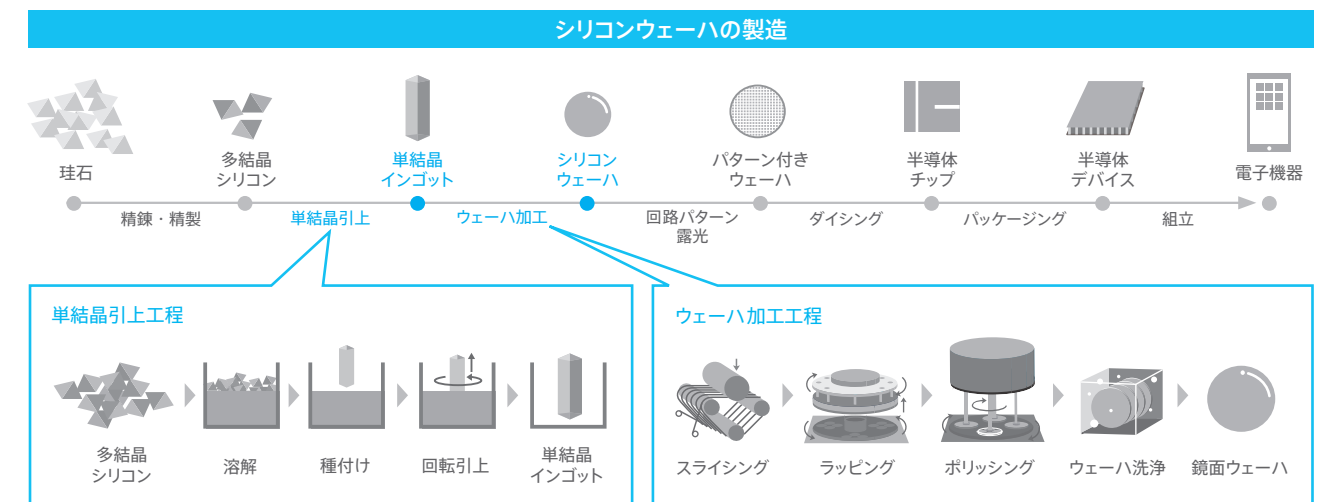
IoT・デジタル家電

ウェアラブル端末や、スマートフォンで操作可能なデジタル家電など、様々なモノがインターネットにつながる IoT 機器。これらに搭載されているデータ通信用の半導体やセンサーには、SUMCO のシリコンウェーハが用いられています。



カメラ

大切な思い出を記録するデジタルカメラや公共の安全を守る防犯カメラ。これらの機器が映像・画像を撮影する際の「眼」となるのがイメージセンサーと呼ばれる半導体デバイスです。このイメージセンサーの高い品質・信頼性も、SUMCO のシリコンウェーハが支えています。



シリコンウェーハの製造プロセスには単結晶引上工程とウェーハ加工工程とがあります。単結晶引上工程では、原料の多結晶シリコンを溶解し、単結晶インゴットを製造します。ウェーハ加工工程では、単結晶インゴットをスライスして、円盤状にしたものを研磨・洗浄し、表面を鏡面に仕上げます。

SUMCO は、全社員一丸となって、 エクセレントカンパニーを目指します



Supplier Continuous Quality Improvement (SCQI) 賞 (インテル社)

1. 技術で世界一の会社

SUMCOの技術力と安定した製品供給実績はお客様から高い評価を受けており、サプライヤー表彰制度を持つ多くの半導体メーカーから表彰されています。

2019年3月には、世界トップの半導体メーカーであるインテル社から17年連続となる「Supplier Continuous Quality Improvement(SCQI)賞」をいただきました。また、ファウンダリートップのTSMC社からは、「Excellent Performance 賞」を5年連続で受賞しました。さらに、世界最大の半導体メモリーメーカーであるサムスン社からは、「The 35th Anniversary of Partnership 賞」を受賞し、半導体のトップメーカーから5年連続で同時受賞という快挙を達成しました。

こういった高い評価をベースに、お客様への長期的なコミットメントや相互信頼に基づいた協業活動を推進し、一段の技術力向上に注力してまいります。

2. 景気下降局面でも赤字にならない会社

シリコンウェーハ市場は、事業環境が短期間に大きく変化するという特徴があります。SUMCOグループでは、景気下降局面でも赤字にならない収益体質の実現を目指し、常時、収益改善に努めています。

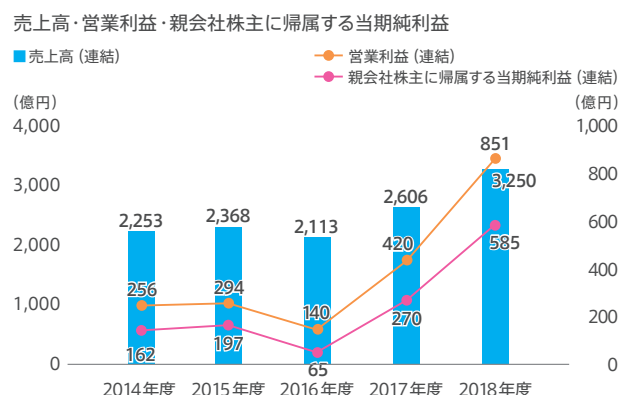
今後も、コスト低減、品質向上、製品の他社との差別化により、より一層の収益を確保できる企業体質を目指してまいります。



Excellent Performance 賞 (TSMC社)



The 35th Anniversary of Partnership 賞 (サムスン社)



3. 従業員が活き活きとした利益マインドの高い会社

実際にシリコンウェーハを製造し、販売するのは、会長・社長や役員ではなく、従業員です。

SUMCOグループでは、従業員一人ひとりがSUMCOビジョンを共有し、利益やコストの意識を持って、課題の発見と解決に取り組んでいます。こうした従業員の意識・活動を醸成するため、会長兼CEO・副会長・社長兼COOが各工場を巡りて「経営状況説明会」を頻繁に開催し、環境に即応した経営課題の共有化を行っています。



経営状況説明会 (瀬井副会長)

また、会社で働く従業員一人ひとりのモチベーションが高くなければ、SUMCOビジョンに定める「技術で世界一の会社」も「赤字にならない会社」も実現することはできません。SUMCOグループでは、様々な表彰制度を設け、従業員の努力と成果を適切に評価しそれに報いることで、従業員のモチベーション向上を図っています。

さらに、育児にあわせて柔軟に勤務時間を選択できる多様な勤務メニューの整備や、事業所内保育所を当社最大拠点の九州事業所伊万里地区に開設するなど、仕事と育児の両立を支援する取組みを進め、従業員にとって働きやすい職場づくりを進めています。



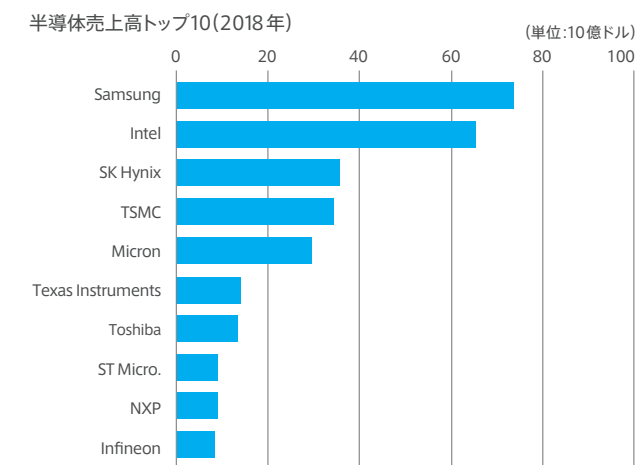
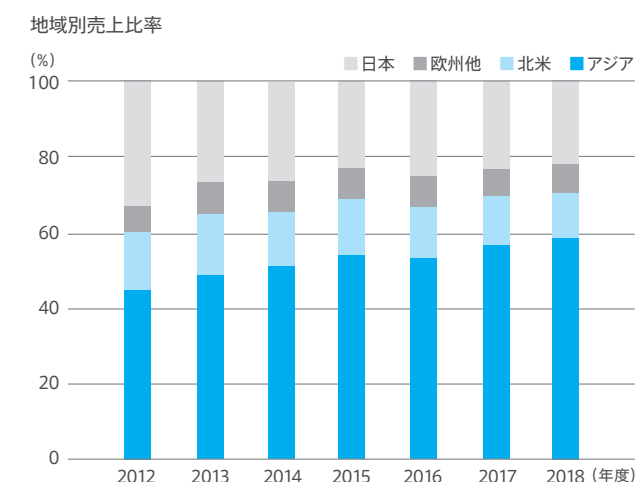
全社TPM発表会



SUMCO Phoenix Corporationの従業員

4. 海外市場に強い会社

SUMCOグループは、日本をはじめアメリカ・台湾・インドネシアに製造拠点を持つほか、世界各地に販売拠点をもち、世界中の半導体メーカーにシリコンウェーハを供給しています。SUMCOグループの売上高の実に8割近くは海外市場によるものであり、半導体売上高世界トップ10のすべての企業が、SUMCOグループのお客様です。これらのお客様と長年にわたり強固な信頼関係を築いてきたことは、SUMCOグループの大きな「強み」であり、この「強み」をさらに強化するため、国籍を問わず、優秀なグローバル人材の育成を積極的に行っています。



注) Fabless 除き、Foundry 含むランキング
出典: 各種情報を基に SUMCO 作成

SUMCOグループの事業活動と 持続可能な開発目標 (SDGs)

SUMCOの製品であるシリコンウェーハは、日常生活で直接目にすることはありませんが、私たちの暮らしを豊かにするあらゆる電子製品に搭載されている半導体デバイスの製造に欠かせないものです。

社会の基盤を支える企業の一員としての責任を果たすため、SUMCO は、SDGsを中長期的な国際社会の要請を示す指針として活用して、持続可能な社会の実現に向け努力しています。

SUMCO ビジョン

① 技術で世界一の会社 ② 景気下降局面でも赤字にならない会社

③ 従業員が生き生きとした利益マインドの高い会社 ④ 海外市場に強い会社

SUMCO CSR 方針

- SUMCO は、先端技術に支えられ、優れた品質・性能・安全性をもつ製品とサービスを安定して供給し、お客様の満足と信頼を得て、社会の持続的発展に貢献して参ります。
- SUMCO は、適切な利潤を産み出して、企業価値を成長させ、適時適切な情報開示を進め、株主・投資家の皆様への還元を目指します。
- SUMCO は、法令・国際ルール・社会規範を遵守して誠実に事業を展開し、リスクマネジメントを実施して企業活動を継続します。
- SUMCO は、お取引先の皆様を公正で合理的な基準により選定し、信頼関係を築きながら、共に繁栄して参ります。
- SUMCO は、環境に配慮し、資源・エネルギーを有効に活用し、排出を統制します。
- SUMCO は、SUMCO で働く人に、安全・健康・快適で適正な職場を確保し、人権・能力・個性を尊重して、公正で多様な働き方を実現します。
- SUMCO は、様々な文化・歴史を尊重し、社会および地域の皆様と交流を広げて参ります。

SDGsについて

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月の「国連 持続可能な開発サミット」において採択された「2030 アジェンダ」で掲げられた目標で、2030年までに実現すべき17のゴールと169のターゲットで構成されています。

SDGsのゴールとターゲットは、経済、産業、社会の諸課題を包括的に取り扱っており、経済活動の主体である企業も、SDGs達成のための責任主体の一つとして重要な役割を担うことが期待されています。

※ SDGsについて詳しくはUnited Nationsウェブページ内「Sustainable Development Goals Knowledge Platform」などをご参照下さい。

SDGsの重要目標とSUMCOの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



製品を通じた SDGs への貢献



私たちの生活を支えるデジタルインフラへの貢献

- 通信機器、自動車、デジタル家電、医療機器、都市インフラなど
幅広い半導体デバイスの基幹材料となるシリコンウェーハ ⇒ p.5~6



交通事故減少への貢献

- 自動運転、自動ブレーキなどの運転支援システムに対応した
車載用半導体デバイス向けシリコンウェーハ ⇒ p.5

安心・安全なまちづくりへの貢献

- 防犯カメラや、スマートグリッドで用いる通信機器、IoT 機器向けの
シリコンウェーハ ⇒ p.5



エネルギー効率改善への貢献

- 低消費電力デバイス向けシリコンウェーハ ⇒ p.6

温室効果ガス排出低減への貢献

- EVやハイブリッド車 (HV,PHV) 向けのIGBT用シリコンウェーハ ⇒ p.5

ビジネスプロセスを通じた SDGs への貢献



環境に配慮した企業活動の推進

- 地球温暖化防止への取り組み ⇒ p.21
- 廃棄物削減への取り組み、水資源の有効活用 ⇒ p.22
- 清掃活動・環境保全活動への参加 ⇒ p.35
- 環境報告を含むCSR報告書の発行



女性の活躍推進

- 事業所内保育所の設置、託児支援手当制度の充実など ⇒ p.31
- 性別を理由とする差別の禁止とSUMCO 行動憲章への明記 ⇒ p.14



安全・安心な労働環境の促進

- 多様な人材の活用と育成 ⇒ p.30
- 安全・健康衛生への取り組み ⇒ p.32



コンプライアンス・公正な事業活動の推進

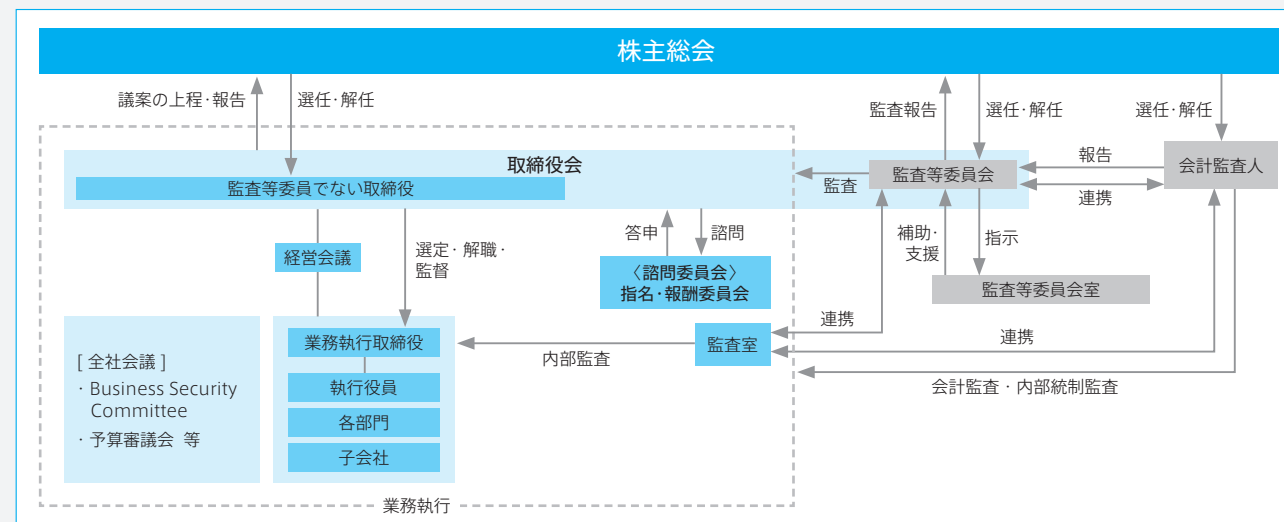
- 贈収賄を含む腐敗防止に向けた取り組み ⇒ p.13

コーポレート・ガバナンス

取り組む理由

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現することで、株主からの負託に応えるとともに、株主以外のステークホルダーとも良好な関係を構築・維持していくことが、経営上の重要課題であると認識しています。このような認識に基づき、迅速な経営意思決定と業務執行における透明性の確保を図るべく、取締役会の監査・監督機能の強化、取締役の職務執行の効率性の確保、および内部統制の充実等をはじめとするコーポレート・ガバナンスに関わる諸施策に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会

当社の取締役会は、各担当業務における業績およびマネジメント能力に秀でた社内取締役と、専門的な知識および経験の豊富な社外取締役で構成することにより、取締役会全体としての知識、経験、能力のバランスおよび多様性を確保するという基本方針に基づき、取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名および監査等委員である取締役5名（うち4名は独立社外取締役）で構成されています。

当社の取締役会は、法令、定款および取締役会規則に基づき、経営戦略、経営計画、その他経営に関する重要な事項の決定を行い、各取締役から職務の執行状況の報告を受け、コンプライアンス、内部統制やリスク管理の運用状況、関係会社の重要な業務執行の監督を行うとともに、独立社外取締役も参加した自由な意見交換のもとで適切に会社の業績等の評価を行い、その評価を経営幹部の人事に反映しています。

コーポレート・ガバナンス体制に関する考え方

当社は、監査等委員会設置会社制度を採用しています。この制度の採用により、取締役会において議決権を持つ監査等委員である取締役が業務執行を監督することで、監査・監督機能の実効性が向上するとともに、内部監査部門を活用した監査の実施により内部統制の実効性が向上しました。

また、当社は、決算等に関する事項、経営計画に関する事項のほか、重要な業務執行については、独立社外取締役を含めた取締役会で十分議論を行ったうえで決定することを基本方針としております。そのため、重要な業務執行の決定を取締役に委任できる旨を定款に規定していません。

継続的にコーポレート・ガバナンスの実効性向上を図るため、毎年、取締役会の実効性評価を実施しています。なお、2018年は取締役会を計16回開催しました。

独立社外取締役

当社は、社外取締役として、弁護士、公認会計士の職務経験を持つ経営コンサルタント、行政分野における職務を通じて培われた幅広い経験・知見並びに長年にわたる企業経営に関する経験を有する者、および金属素材分野研究の専門家としての知識と長年の大学教授としての経験を有する者の4名を選任して

います。なお各社外取締役は、東京証券取引所の独立役員の独立性の基準に基づいて定める当社の「独立性の基準」を満たし、一般株主との間で利益相反が生ずるおそれがないと認められる者であることを確認しています。

各独立社外取締役は、SUMCOグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、経営に関する重要事項について自らの知見に基づき助言を行っています。また、少数株主をはじめとするステークホルダーの皆様の視点に立って経営の監督を行い、取締役候補者の選任その他取締役会における当社の重要な意思決定に参加し、取締役会、経営陣等の業務執行および当社と経営陣等の間の利益相反を監督します。

監査等委員会

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役5名（うち過半数の4名は独立社外取締役）で構成されています。監査等委員会の活動の実効性を確保するため、監査等委員の互選により常勤の監査等委員を置くとともに、監査等委員のうち最低1名は、財務・会計に関する相当程度の知見を有する者とするよう努めることを基本方針としています。また当社は、監査等委員会

社外取締役メッセージ

社外取締役 三富 正博

Q1. 社外取締役という立場から、今後SUMCOがどのように中長期的な事業の推進・発展を進めることを期待し、どのように関わっていくことをイメージしていますか？



SUMCOが今後中長期的に事業を推進・発展するためには、これからもSUMCOビジョンの実現へ向けた取組みを継続的に行っていくことが重要だと思います。さらには業界の変化に柔軟に対応するために、強みと機会がない分野からは退くとともに、強みと機会がある分野にさらに踏み込んでいくべきだと思います。このような視点から今後も社外取締役として関わっていきます。

Q2.SUMCO のガバナンス体制についての強みや特徴などについてお聞かせください。

SUMCOのガバナンス体制の強みはまず、シリコンウェーハの業界に長く身を置き精通している人材が経営にあたっていることが挙げられます。また社外取締役4名が各々の専門分野から経営陣に意見をオープンに言える環境にある

の活動を補助し監査の円滑な遂行を支援するため「監査等委員会室」を設置し、スタッフを配置しています。

監査等委員会は、法令に基づく調査権限を行使するとともに、法令・定款等の遵守状況の点検・確認、および財務報告に係る内部統制を含めた内部統制システムの整備・運用状況等の監視等を通じて、取締役の職務の執行が法令および定款に適合し、適正に遂行されているかを監査します。

指名・報酬委員会

当社は、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として、社内取締役2名と独立社外取締役2名からなる指名・報酬委員会を設置しています。

指名・報酬委員会は、原則年2回開催され、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者の選任プロセス、資質および指名理由並びに役員報酬等に関して、取締役会から諮問を受けてその適切性等について検討し、会社の業績等の評価も踏まえて答申を行います。取締役会は、指名・報酬委員会の答申を得て、取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者の指名および報酬等の決定を行います。

ことも相まって取締役会で健全な議論が行われていることが特徴的だと思います。

Q3. 近年ESG（環境・社会・ガバナンス）に対する関心・期待が高まっていますが、SUMCOとしてどのように対応していくことが必要だと感じていますか？

SUMCOにおいては、SUMCOビジョンやCSR方針を実現する中にESGの視点も織り込まれていると考えています。よってこれらの実現に向けてさらに愚直に進捗していくことが大切ではないかと思っています。そのためにはこれらを実現していける人財を組織の階層の中で重層的に作っていくことが大切ではないかと感じています。

取締役(監査等委員) 三富 正博

1987/10月	アーサー・アンダーセン東京事務所入所
1991/3月	公認会計士登録
1991/9月	アーサー・アンダーセンサンフランシスコ事務所シニア
1994/9月	同シアトル事務所マネージャー
1996/3月	同アトラタ事務所シニア・マネージャー
2001/5月	株式会社バリュウクリエイト代表取締役（現任）
2009/4月	慶応義塾大学ビジネススクール非常勤講師（現任）
2014/3月	当社社外取締役
2016/3月	当社社外取締役（監査等委員）（現任）
2017/3月	株式会社大塚家具社外取締役（監査等委員）



コンプライアンス

取り組む理由

SUMCOグループでは、法令や守るべき社会的規範を確実に遵守することは、当社が社会的責任を果たすうえで根幹をなすものであり、また当社の企業価値の持続的な向上に不可欠であると認識し、コンプライアンス活動の推進に取り組んでいます。

SUMCO 行動憲章

SUMCOグループは、社会的責任を果たしつつさらに成長するための行動基準として、法令遵守のみならず広くCSR全般について従業員が守るべき規範を定めた「SUMCO 行動憲章」を制定し、社内の様々な規定や遵守プログラムの上に位置する最高位の規定として位置付けています。この「SUMCO 行動憲章」の一層の浸透を図るため、社内イントラネットに常時掲示すると

SUMCO CSR 方針

1. SUMCOは、先端技術に支えられ、優れた品質・性能・安全性をもつ製品とサービスを安定して供給し、お客様の満足と信頼を得て、社会の持続的発展に貢献して参ります。
 2. SUMCOは、適正な利潤を産み出して、企業価値を成長させ、適時適切な情報開示を進め、株主・投資家の皆様への還元を目指します。
 3. SUMCOは、法令・国際ルール・社会規範を遵守して誠実に事業を展開し、リスクマネジメントを実施して企業活動を継続します。
 4. SUMCOは、お取引先の皆様を公正で合理的な基準により選定し、信頼関係を築きながら、共に繁栄して参ります。
 5. SUMCOは、環境に配慮し、資源・エネルギーを有効に活用し、排出を統制します。
 6. SUMCOは、SUMCOで働く人に、安全・健康・快適で適正な職場を確保し、人権・能力・個性を尊重して、公正で多様な働き方を実現します。
 7. SUMCOは、様々な文化・歴史を尊重し、社会および地域の皆様と交流を広げて参ります。

公正な事業活動・反腐敗

当社は、公正な事業活動の推進、および贈収賄を含む腐敗の防止の観点から、「SUMCO 行動憲章」において、法の遵守、公正な競争および公務員等への不正な利益供与の禁止を明記するとともに、詳細な定めを「利益供与等取扱規定」に置いています。

「利益供与等取扱規定」では、(1) 違法な政治献金・寄付、(2) 公務員の職務に関連した接待・贈答、(3) 株主の権利行使に関する財産上の利益供与、(4) 社会的常識の範囲を超えた過剰な接待や贈答など、一切の違法な利益供与および社会的常識に照らし不正・不当と認められる取引全般を禁止するとともに、寄付・賛助、交際費、慶弔費、外部団体会費、業務委託等について基準を定め、適切な決裁を経て実施することとしています。

当社では、「利益供与等取扱規定」を社内イントラネットに常時掲示し周知を図るとともに、「SUMCO 行動憲章」の研修を通

ともに、全従業員を対象に定期的に教育を行っています。

また、「SUMCO 行動憲章」に基づき、コンプライアンスの最高責任者として遵法担当役員を設置しています。遵法担当役員は、各部門・関係会社の責任者を通じて「SUMCO 行動憲章」の遵守状況を確認し、定期的に取り締役に報告してレビューを受けています。

さらに、法令遵守を確実なものとするため、「法主管規定」により事業遂行上関係する法令の主管部門を定め、各主管部門が法令の制定・改廃状況を継続的にモニタリングするとともに、監査部門による内部監査において、法令遵守状況の確認を行っています。

コンプライアンスに関して問題が発見された場合には、遵法担当役員の指揮のもと、関係部門が協力して直ちに問題を是正し、原因の究明・再発防止にあたります。

内部通報制度

当社は、法令違反行為や「SUMCO 行動憲章」に違反する行為を通報できる内部通報制度を導入しています。従業員が安心して通報できるよう、内部通報窓口として社内窓口に加えて社外窓口（弁護士）も開設し、匿名での通報を認めるとともに、通報者への報復をはじめとするあらゆる不利益取扱いを厳に禁じています。

内部通報制度の利用方法や相談先窓口については、社内イントラネットに常時掲示しているほか、全従業員を対象に定期的に行う「SUMCO 行動憲章」の教育時に説明することで、従業員への周知徹底に努めています。

輸出管理

当社は、国際的な平和および安全の維持を目的とする安全保障輸出管理を徹底するために、「SUMCO 行動憲章」において輸出管理規制を遵守すべきことを明記しています。さらに「安全保障輸出管理規定」に基づいて適切な輸出管理体制を構築し、必要な審査等を確実に実施するとともに、従業員への定期的な輸出管理教育などを実施しています。

反社会的勢力との関係遮断

当社は反社会的勢力との関係を絶ち、反社会的勢力からの不当な要求に応じないことを「SUMCO 行動憲章」に明記し、教育・研修を通じて、役員・従業員に周知徹底しています。

SUMCO 行動憲章の主な項目

- SUMCO 行動憲章では、SUMCO CSR 方針のもと、幅広くCSR全般について、従業員が守るべき規範を定めています。

 - 法令、国際ルール、社会規範の遵守
国内外の関係法令はもちろん、贈収賄の禁止や公正な事業活動の推進などについては、法令よりも厳しい基準を遵守することを定めています。
また、RBA (Responsible Business Alliance) 行動規範などの国際的なCSRに対する要請についても、行動憲章の教育時にその内容を紹介し、従業員に理解を求めています。
 - 人権の尊重、安全かつ快適・適正な職場環境の維持
安全衛生・健康の増進による快適で適正な職場の醸成と、人権・能力・個性の尊重を図るために、国籍・人種・年齢・性別・宗教等の不当要因による差別や、種々のハラスメント行為を固く禁止しています。
 - 情報の管理・知的財産権の保護
情報や知的財産権が企業の競争力の源泉であることに鑑み、情報の漏洩・改ざん等の禁止や適切な管理を定めるとともに、知的財産権の活用と、他者の知的財産権の侵害禁止を明記しています。
 - 環境の保護
環境法令を遵守し、廃棄物・汚染物質の削減に努めるべき旨を定めるとともに、この方針を理解して日常的に環境保全を意識して行動するよう求めています。
 - 品質の向上
顧客満足度の向上と製造物責任リスクの低減のため、製品やサービスの品質の維持・向上のために弛まぬ努力をすべき旨を定めています。

紛争鉱物について

タンタル、錫、金またはタングステンのいずれも、当社の製品の機能性または生産に必須ではなく、よって当社の製品は、米国の2010年成立のドッド・フランク ウォールストリート改革および消費者保護法による紛争鉱物規制の対象ではないと認識しています。

リスクマネジメント

取り組む理由

シリコンウェーハ事業はIT社会を支える基幹産業であり、SUMCOグループは世界の半導体デバイスメーカーに対して安定的に供給する責任を負っています。そのため、SUMCOグループは、事業の継続を経営の重要事項であると位置付けています。

リスクを事前に予測しその発生を未然に防止するとともに、万一発生した場合の被害を最小限に抑制することを目的に、全社横断的なリスク管理統括組織であるBSC(Business Security Committee)において、リスクの特定・分析・評価や対策の実施、BCP(事業継続計画)の策定などのリスクマネジメント活動を推進しています。

リスク管理基本方針

当社では、リスク管理に係る基本事項を「リスク管理基本規定」に定め、これに基づいてリスクマネジメント活動を行っています。

- リスク対応にあたっての基本的な考え方は、以下の2点です。
- 経営資源の適正配分および実効性の確保の観点から、発生率が高く、かつ、発生した場合の影響度が大きいリスクから優先的に対応を進める。
 - 事業継続性の観点から、仮に事故等が発生しても、事業活動の中断あるいは停止といった事態に至らぬよう、被害および損失の最小化を目指す。

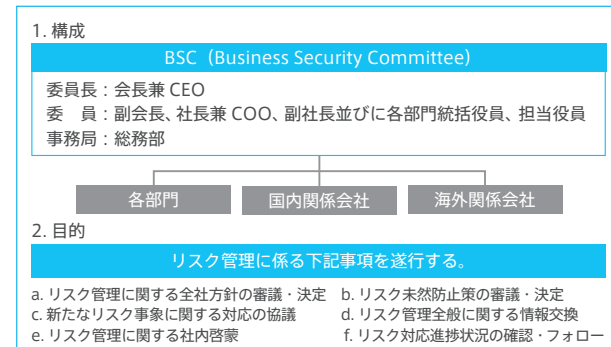
リスク管理基本規定における主な想定リスク

- 経営全般に係るリスク
例) 契約上のトラブル、新規事業投資
- 事故・災害に係るリスク
例) 地震、風水害、水や電力の供給停止
- 事業中断に係るリスク
例) 火災、設備事故、生産障害、原材料調達途絶
- コンプライアンスに係るリスク
例) 独禁法違反、汚職・反腐敗関連法規違反、雇用関係法令違反、環境規制違反
- 情報に係るリスク
例) 企業秘密の漏洩、ネットワーク遮断
- 知的財産に係るリスク
例) 知的財産権の侵害、被侵害
- 人事・雇用に係るリスク
例) ハラスメントや、不祥事・犯罪等の発生
- 税務・経理に係るリスク
例) 資金調達への支障、為替の急激な変動
- 製品・サービスに係るリスク
例) 品質問題・クレームの発生
- 安全・衛生に係るリスク
例) 労災、伝染病の発生
- 環境に係るリスク
例) 公害、環境事故
- 与信に係るリスク
例) 顧客の経営破たん

BSC (Business Security Committee)

当社は、リスク管理全般を統括する全社組織として、BSC (Business Security Committee) を設置し、リスク管理に関する全社方針の策定およびリスク対応の進捗状況の確認等を行っています。

BSC の構成と目的



事業継続への取り組み

当社は、「リスク管理基本規定」に、事業継続が経営上の重要事項であることを定め、事業継続を確実なものとするべくBCP(事業継続計画)の整備に取り組んでいます。

BCPの内容とその整備状況、訓練の結果などは前述のBSCに報告され、有効性の検証が行われるとともに今後の対応方針が示され、これに基づき各部門・各社が対応を進めることで、BCPのさらなる改善を図っています。

緊急時の体制の整備

当社は、大地震等の大規模災害や事故が発生した場合に迅速に対応し、従業員の安全確保、資産の保護、事業の早期再開を図るため、初動対応を定めたマニュアルや対策本部などの体制の整備を行っています。

2018年度には、東京都心直下型地震の発生により東京本社

での業務継続が困難となった場合を想定し、本社機能を継続するためのBCP訓練を実施しました。

また各工場では、地震等の災害の発生を想定して、避難、消火、通報、救出救護、搬送などを内容とする総合防災訓練を実施し、訓練終了後には、問題点を抽出して手順等の見直しを行うことで、常に改善を行っています。



総合防災訓練



安否確認システム

SUMCOグループでは、日本国内に在勤する従業員の安否確認が迅速かつ確実にできるよう、「安否確認システム」を導入しています。このシステムにより、災害後の復旧活動の早期化に寄与できるものと考えています。

コンピュータシステムの災害対策

当社では、全社で使用する基幹システムに加えてその周辺システムについても二重化を行い、バックアップサーバーをスタンバイし、データの同期を行うことで、サーバ設置場所が大規模地震等の被害を受けても業務を継続できる体制を整えています。

訓練・対策の実施

SUMCOグループでは、災害発生時の被害低減のため、定期的に、消火器・消火栓取扱などの初期消火訓練や、空気呼吸器取扱訓練、心肺蘇生法・AED訓練などの救命訓練、さらに階段で避難する場合を想定した布担架を使用しての搬送訓練などを行い、緊急時の対応能力を高めています。

また、当社九州事業所では、薬品納入時の漏洩事故が起きた際に安全かつスムーズな処置ができるように、定期的に薬品納入のお取引先との合同対応処置訓練を実施しています。



応急手当訓練



救命講習

Voice 01

SUMCO TECHXIV 株式会社
総務部 長崎安全防災課
班長 旭 勝人



Q. 長崎工場における防災訓練の実施状況・参加状況について聞かせてください。

総合防災訓練では震度6強の大規模地震を想定し、生産技術本部長以下、主要役職者で構成される災害対策本部をセンターとして、主に初期対応の動きを確認しています。近年の訓練では、とりわけ「人命最優先」の観点から、従業員の安否確認や不明者の搜索、救出救護、応急医療処置、安全な避難ルートの選択などの訓練に力を入れています。2018年度の長崎地区における参加者は400名を超え、この数字からも防災に対する従業員の関心の高さがうかがえます。また夜間に大地震が発生することを想定した夜間防災訓練についても、交替勤務者を対象に年1回実施しています。防災訓練実施時には毎年、地元の大村消防署に立会いをお願いし、訓練全体の講評とともに、プロの目から見た貴重なご指摘やご指導をいただいております。これからも地域社会と連携し、訓練を通じて防災レベルを着実に向上させ、「災害時の自助、共助、公助」を必ずや実現したいと思います。

情報の管理

当社は、情報を適切に使用・管理すべきことを「SUMCO行動憲章」に明記するとともに、「情報管理規定」やその関連規定・ガイドライン等を制定し、これらに基づいて従業員に定期的に情報管理教育を実施する等、営業秘密や顧客情報の漏洩防止等に努めています。

さらに個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」に基づき「個人情報管理規定」を制定し、個人情報を適切に管理しています。

情報漏洩対策

当社は、情報漏洩対策として、インターネットを経由した外部からのコンピュータシステムへの攻撃やコンピュータシステムの不正利用、コンピュータシステムのウイルス感染といった各種リスクへの対策を講じ、情報の社外への流出を防いでいます。

環境に配慮した企業活動

環境マネジメント

取り組む理由

省エネルギー化への取組み、温室効果ガスの排出抑制、廃棄物の排出量削減など、企業の事業活動における環境負荷の低減は、地球環境の維持・保全のための喫緊の課題です。

SUMCOグループは、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐため、環境マネジメントシステムを構築し、すべての工場
ISO14001の認証を取得して環境に配慮した取組みを行っています。

SUMCO 環境基本方針

1. 環境基本理念

私たちは、半導体用の高品質なシリコンウェーハ及び石英ルツボの製造メーカーとして、このかけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、次の通り行動指針を定め、環境保全活動に自主的かつ継続的に取り組みます。

2. 環境行動指針

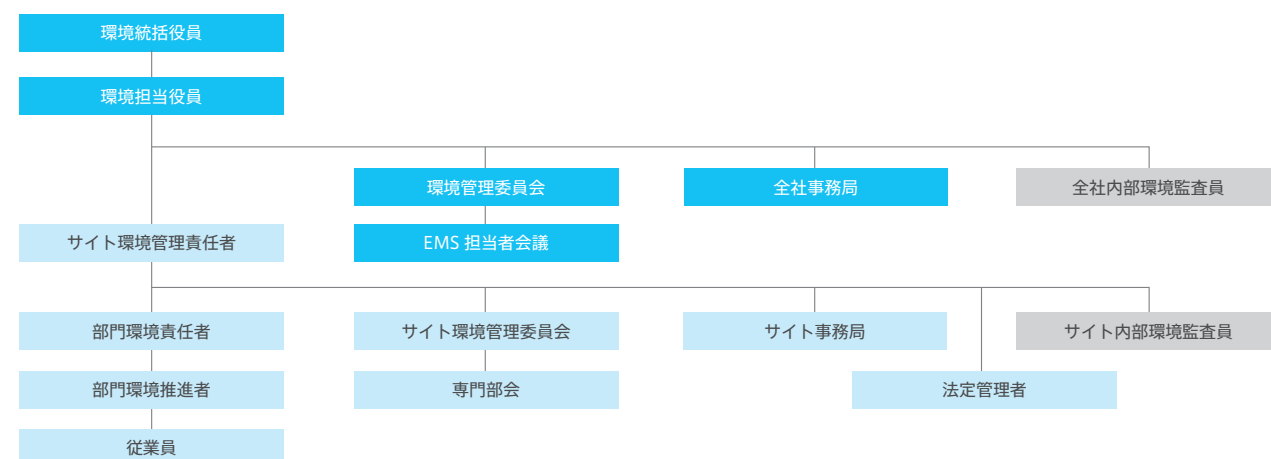
- 1 事業活動を通じ、次の項目を重点課題として活動を推進します。
 - ① 事業活動における電力などの省エネルギー活動を推進し、温室効果ガスの排出抑制に努めます。
 - ② 廃棄物の排出量削減及び再利用、リサイクルの拡大に努めます。
 - ③ 事業活動にて使用する化学物質の削減に努めます。
 - ④ 有害な化学物質及び廃棄物の取扱管理を徹底し、環境リスクの低減に努めます。
- 2 環境関連の法規制、条例及びその他の同意した要求事項を順守します。
- 3 事業活動全般において汚染の予防を図り、地球環境保全及び地域との共生に努めます。
- 4 環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

2017年1月1日

環境管理体制

環境統括役員のもと、環境担当役員およびサイト環境管理責任者を任命し、それぞれの役割、責任および権限を定めて環境管理体制を構築しています。環境管理委員会、サイト環境管理委員会を定期的に開催し、指示の徹底および情報の共有を図っています。

環境管理体制図



環境目標

SUMCOグループでは、環境基本方針、および定期的に実施する環境影響評価結果に基づいて環境目標を定めており、すべての製造拠点において、この目標に沿ってCO₂排出量や、化学物質使用量、産業廃棄物排出量や用水使用量の削減といった環境負荷の低減や環境改善の取組みを実施しています。この環境目標の基準値は、前年実績としています。また、半期ごとの実績を確認し、必要に応じて目標値の見直しを行っています。

環境目標 (2018 年度～ 2021 年度) と 2018 年度実績

基準：前年度実績	2018 年度		2019 年度	2020 年度	2021 年度
	目標	実績	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量の削減	0.9%減	1.1%減	0.7%減	0.7%減	0.7%減
化学物質使用量の削減	0.9%減	1.0%減	1.6%減	1.6%減	1.6%減
産業廃棄物排出量の削減	0.6%減	0.9%減	2.6%減	2.6%減	2.6%減
用水使用量の削減	0.6%減	0.7%減	0.3%減	0.3%減	0.3%減

環境教育

お取引先への環境事故予防教育

SUMCOグループ（国内）では、化学物質等の納入各社および産業廃棄物引取り各社を対象として、当社において環境事故予防と法令遵守も含めた教育を実施しています。

具体的内容

1. 車両からの燃料、オイル等の漏洩点検実施の依頼
2. 納入・引取り時の当社担当者の立会いと指示の遵守
3. 産廃車両からの汚泥・廃液等の落下を防止するための
重点点検の依頼
4. 過去に発生した社内環境
事故事例の紹介



環境事故予防教育

環境監査

SUMCOグループでは、社内監査員による内部環境監査、外部審査機関による環境マネジメントシステム審査を実施しています。

內部環境監査

SUMCOグループでは、環境マネジメントシステムの対象となる全組織に対して社内監査員による監査を毎年実施しています。監査の結果については環境統括役員へ報告を行い、翌年の活動に反映し、環境マネジメントシステムを継続的に改善しています。

環境マネジメントシステム審査

SUMCOグループでは、外部の審査機関による毎年の定期審査および3年ごとの更新審査を実施しています。

環境関連法規制の遵守

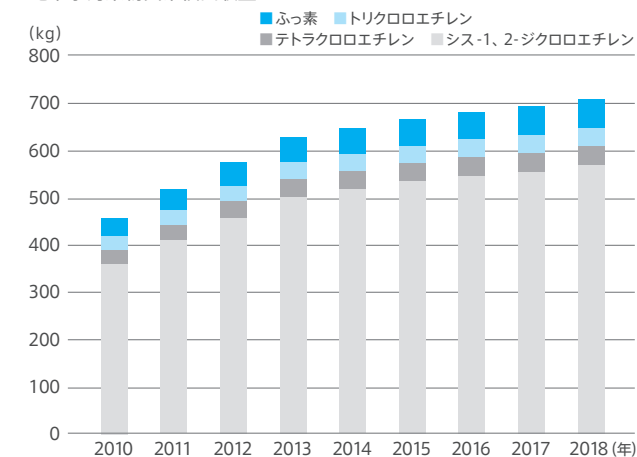
SUMCOグループは、法規制および協定で要求されている事項を特定し、遵守確認を実施しています。

また、海外の化学物質規制（RoHS 指令や REACH 規制など）も遵守しています。

野田事務所における土壌・地下水汚染対策状況

2005年に実施した自主調査において、揮発性有機化合物、およびふっ素の土壌・地下水環境基準値の超過が確認され、当社は関係先と協議しながら対策を進めてきました。現在は、敷地境界付近に設置した揚水井戸により、汚染物質の拡散防止と回収に取り組んでいます。

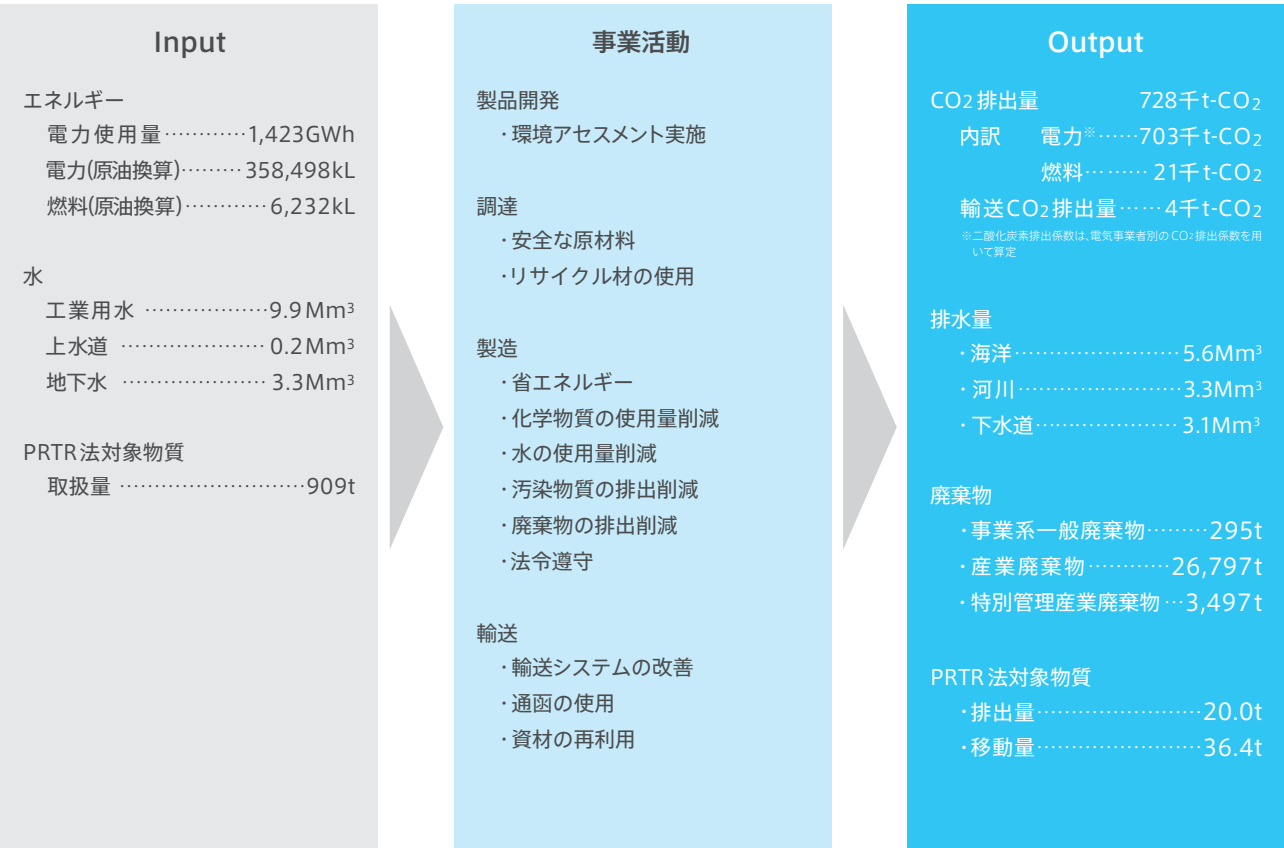
地下水汚染物質累積回収量



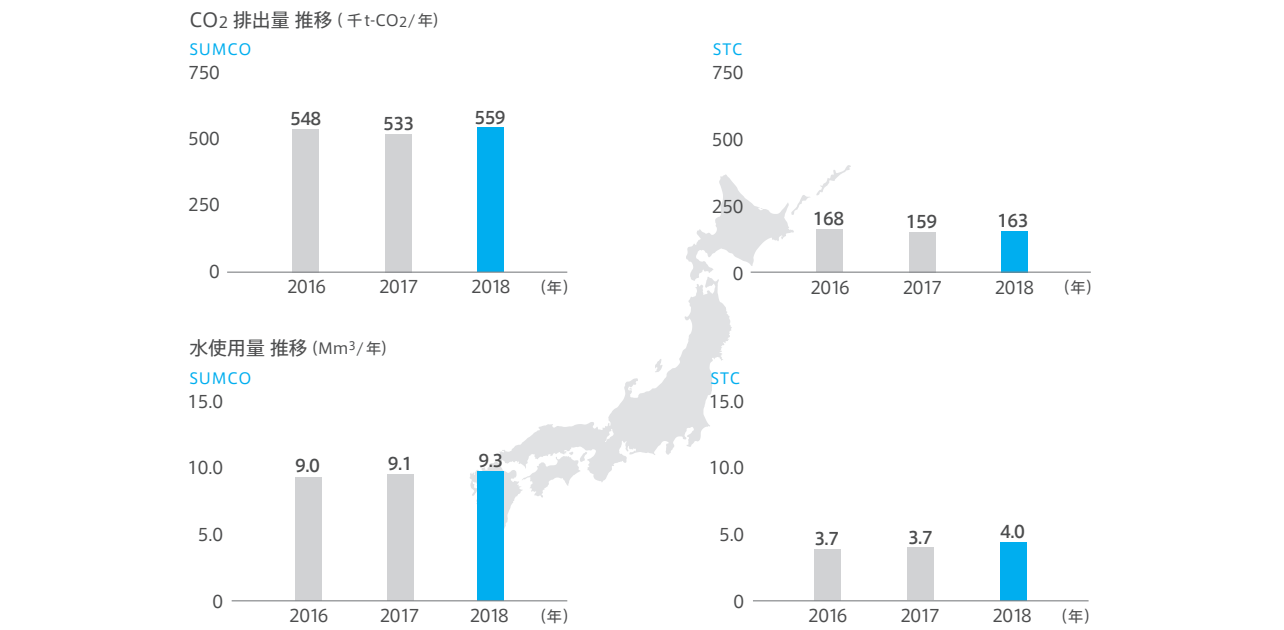
事業活動における環境負荷

エネルギー資源の枯渇、地球温暖化の問題や生物多様性の喪失など、世界規模で環境への影響が深刻化している中で、SUMCOグループでは、生産活動を行うにあたり、電力、化学物質、廃棄物、排水を著しい環境側面として特定し、あらゆる事業活動において、環境配慮や環境負荷低減の取組みを推進しています。

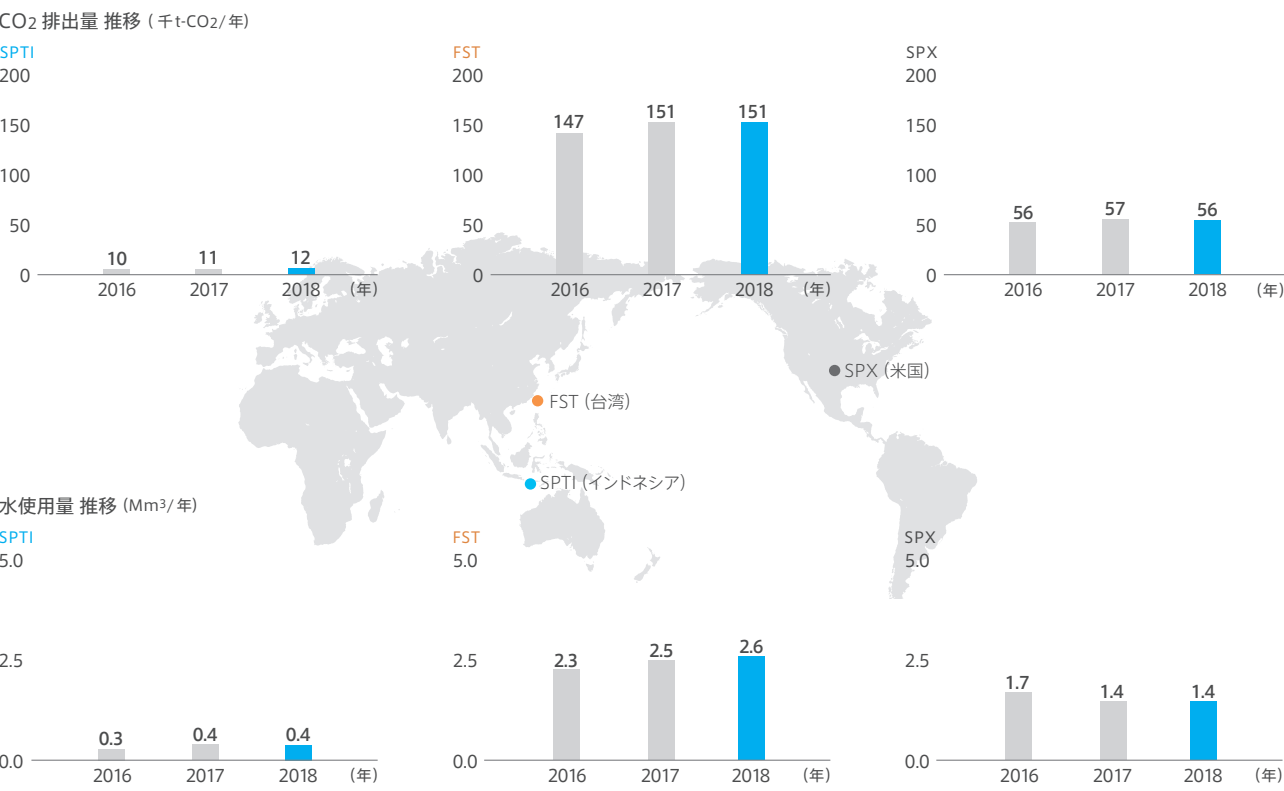
2018 年の事業活動と環境負荷 (SUMCO グループ/国内)



環境負荷の推移 (国内)



環境負荷の推移 (海外)



※「STC」はSUMCO TECHXIV 株式会社、「SPX」はSUMCO Phoenix Corporation、「SPTI」はPT. SUMCO Indonesia、「FST」はFORMOSA SUMCO TECHNOLOGY CORPORATION を表しています。
※海外関係会社のCO₂排出係数は、GHG プロトコル (The Greenhouse Gas Protocol Initiative) の各国排出係数を用いて算定

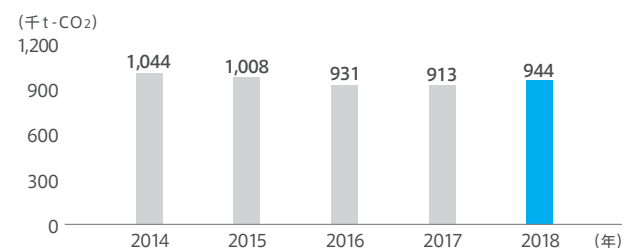
地球温暖化防止への取組み

SUMCOグループでは、シリコンウェーハの製造における電力使用量を削減するために、生産の効率化や合理化を推進しています。また、生産設備およびユーティリティ設備の更新時に、省エネタイプや高効率化設備を採用しています。

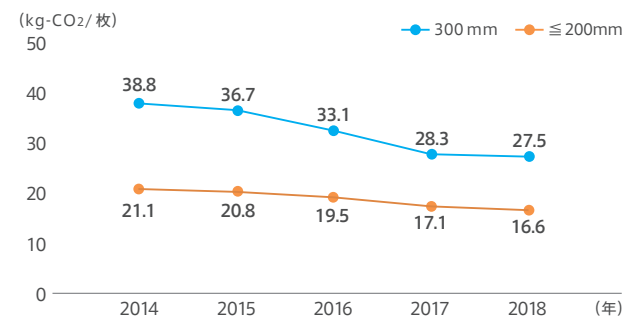
事務所においても、休憩時間や昼休み時の消灯および冷暖房の適正温度を定め、省エネに努めています。このような取組みにより、CO₂排出量の削減を図っています。

また、SUMCOグループ(国内)は、気候変動問題への取組みの一環として電機・電子業界の「低炭素社会実行計画」へ参加し、地球温暖化対策に取り組んでいます。

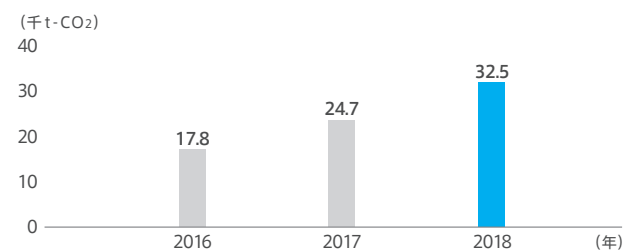
CO₂ 排出量 (SUMCOグループ)



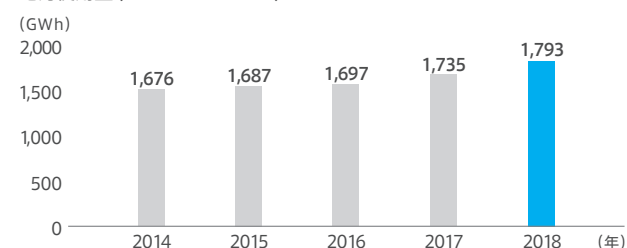
製品(販売)1枚あたりのCO₂ 排出量



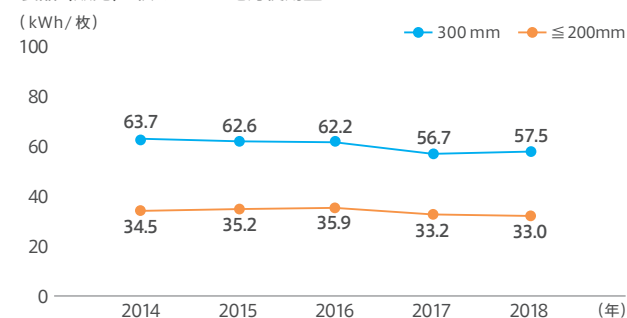
CO₂ 削減に向けた取組みによる累積削減量 (SUMCOグループ/国内)



電力使用量 (SUMCOグループ)



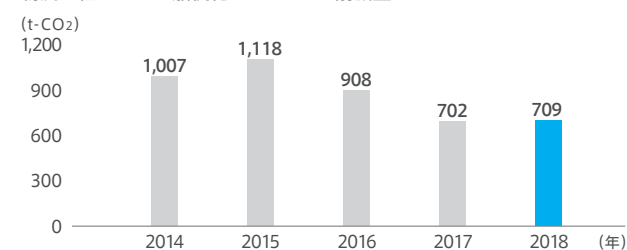
製品(販売)1枚あたりの電力使用量



物流工程における船便化によるCO₂ 排出量削減の取組み

当社では、シリコンウェーハの海外向け輸送は従来航空便を利用してきましたが、CO₂排出量の削減や輸送費の低減の観点から、輸送リードタイムの長期化や輸送環境の変化等の影響も考慮しながら、2009年より一部について船便化に取り組んでいます。導入にあたっては輸送テストを実施し、製品品質に影響がないことを確認し、お客様と相談のうえ進めています。

物流工程における船便化によるCO₂ 削減量



廃棄物削減への取組み

SUMCOグループ(国内)では、廃棄物の中でも排出量の多い汚泥の削減方法として、廃水処理の薬注量の見直しによる汚泥発生量の抑制に取り組んでいます。

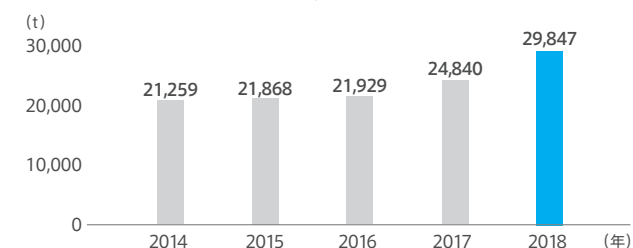
また、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック等については、有価物化およびリサイクル化を推進しています。

リユースコンテナ採用による廃棄物削減への取組み

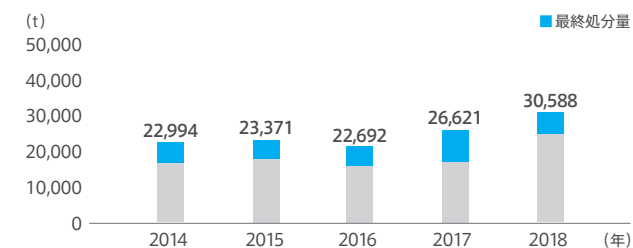
お客様で発生する廃棄物を削減するための取組みの一例として、直径300mmのシリコンウェーハの出荷梱包をリユースコンテナへ切り替える取組みを進めています。なお、2018年のリユースコンテナ使用率は62.6%でした。

リユースコンテナの導入にあたっては、輸送テストを実施し、製品品質に影響がないことを確認しています。

総リサイクル量 (SUMCOグループ/国内)



廃棄物総排出量 (SUMCOグループ/国内)

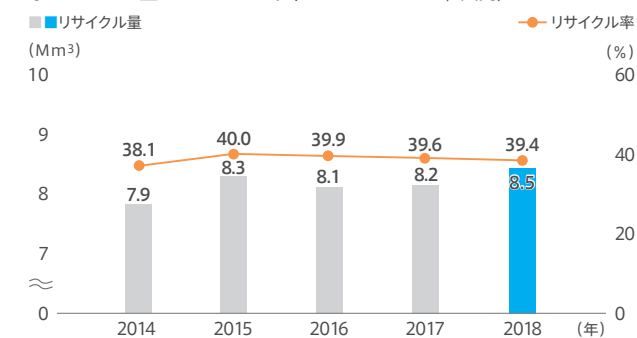


水資源の有効活用

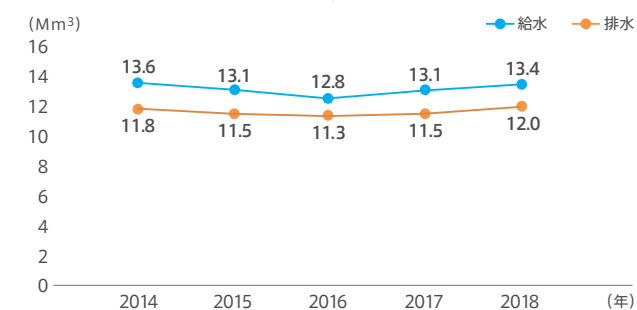
水資源を有効活用するため、ユーティリティ設備の冷却水および廃水処理薬剤の希釈水等に純水製造のリジェクト水を利用しています。また、シリコンウェーハを洗浄する際のリンス水も回収する等、少量でもリサイクルにつながる取組みを行っています。

水リサイクル率は概ね40%で推移しており、2018年は39.4%でした。

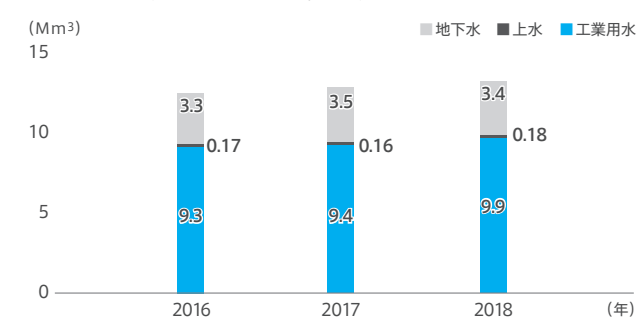
水リサイクル量とリサイクル率 (SUMCOグループ/国内)



給水・排水量推移 (SUMCOグループ/国内)



水源別使用量 (SUMCOグループ/国内)

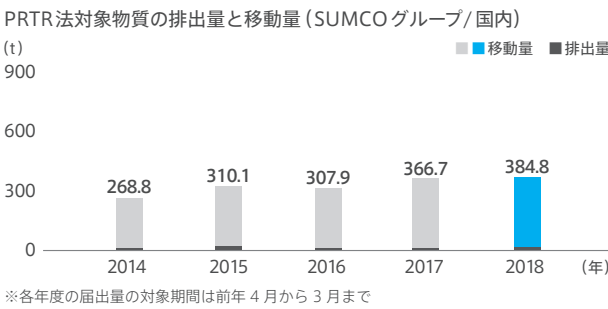




化学物質管理

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）により指定された物質は、排出量および移動量の届出が義務付けられています。

2018年は、PRTR法の届出対象物質数は12物質で、その大半は、洗浄用の薬品および燃料に含有する物質です。



政令番号	第一種指定化学物質の名称	取扱量	排出量				移動量	
			大気	公共用水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物
20	2-アミノエタノール	14.4	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	1.9	0.00	5.81	0.00	0.00	0.00	0.00
71	塩化第二鉄	6.9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
80	キシレン	63.6	1.27	0.00	0.00	0.00	0.00	1.30
88	六価クロム化合物	0.7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.70
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	70.9	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
300	トルエン	7.6	6.7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.86
332	砒素及びその無機化合物	0.9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	658.6	0.45	5.83	0.00	0.00	0.00	303.10
407	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	18.1	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	2.60
410	ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル	56.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	56.00
438	メチルナフタレン	9.0	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計		908.6	8.52	11.71	0.00	0.00	0.00	364.55

※取扱量と排出量・移動量の合計が合わないのは、対象物質が分解・無害化されて排出されたため。

迅速、正確かつ公平な会社情報の開示

取り組む理由

当社は、経営ビジョン・事業の状況・財務内容等の情報を迅速、正確かつ公平に公開することにより、経営の透明性を高め、株主・投資家の皆様に企業価値を正當に評価していただけるよう努めています。また株主・投資家の皆様からいただいたご指摘を経営に反映させることで、企業価値を継続的に向上させるよう活動しています。

情報開示に関する基本方針

当社は、投資家への適時、適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹を成すものであることを十分に認識し、常に投資家の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を徹底します。また、法令等で開示が求められていない会社情報についても、投資判断にとって有用な情報であれば、積極的に開示を行います。

情報開示体制

当社では、株主を含む投資家の皆様との対話は、経営幹部の指揮のもと広報IR室が担当し、その結果は、必要に応じ取締役会および経営幹部に報告しています。また、経営幹部は、四半期毎に開催する決算説明会で自ら説明を行い、必要に応じて個別の面談にも参加しています。

IR活動に際しては、関係部署から必要な情報を収集し、広報・IR室において取り纏めています。また、IR活動の内容を事前に経営幹部と確認するとともに、インサイダー規制に該当することがないよう、十分に留意しています。

当社では、これらの活動を通じて、株主・投資家の皆様の意見や要望を経営に反映させることにより、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に取り組めます。

株主・投資家とのコミュニケーション

― 株主総会 ―

当社は、株主総会を、会社の方針や重要な事項についての意思決定の場であるとともに、株主の皆様との対話の場として位置付けています。招集通知の早期発送や、WEBサイト掲載、英訳版の作成を実施するとともに、総会当日は、事業報告や株主様からのご質問への回答の際、映像やナレーションを用いることで、より分かりやすい説明を心がけています。

― IR活動 ―

当社の適時開示情報は、東京証券取引所のTDnetを通じて開示するとともに、当社のWEBサイト上に、和文・英文同内容の資料を同時に掲載しており、国内外の株主・投資家の皆様に対して、公平な情報開示を行っています。また、アニュアルレポートおよび株主通信を発行し、経営トップからのメッセージや業績、事業の概況をお伝えしています。

さらに通常行っている機関投資家・証券アナリストとの面談に加え、個人投資家向け会社説明会や欧米アジアの海外機関投資家の訪問を定期的実施することで、皆様に当社をより理解していただくよう努めています。



品質と信頼性の追求

取り組む理由

我々は、あらゆる電子機器に搭載される半導体の基幹材料であるシリコンウェーハを製造する企業として、製品の信頼性と安全性の確保、および適用される法令・規制への適合は、果たすべき社会的責任の最優先事項であると考えています。

そのためSUMCOグループでは、品質マネジメントを適切かつ効果的に実施することで、お客様の品質要求事項を満足する製品を安定的に供給し、顧客満足度のさらなる向上を達成することができるよう、努力しています。

SUMCO 品質方針

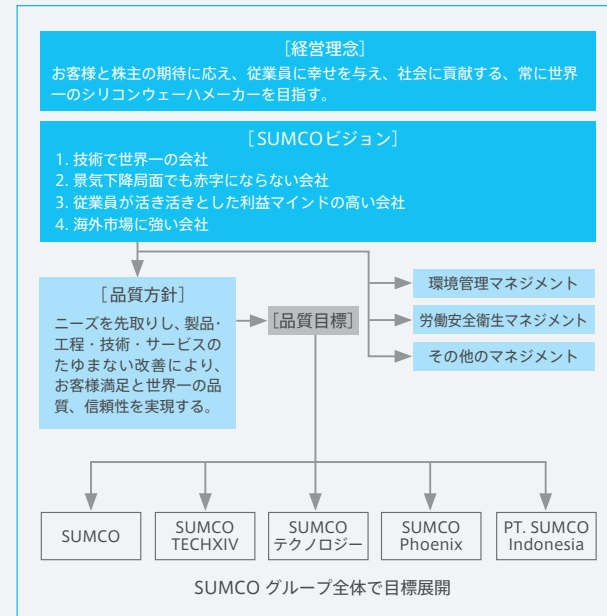
ニーズを先取りし、製品・工程・技術・サービスのたゆまない改善により、お客様満足と世界一の品質、信頼性を実現する。

品質管理体制

SUMCOグループは、国内外の関係会社も含め、設計・開発の段階から製造・出荷に至るまで、すべての拠点でIATF16949やISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築して認証

を取得するとともに、社内品質監査の仕組みを構築し、製品の信頼性をより向上すべく、常に努力を行っています。

SUMCO グループ経営理念および品質方針・目標展開体系



品質教育

製品の信頼性と安全性を向上させるには、責任者のみならず作業員においても監督者としての意識を持ち、スキルを向上させる必要があります。

このため当社では、職種と階層別に必要な品質教育のプログラムを定め、それぞれの教育プログラムのインストラクターを製造工場に配置し、必要な人材に対して必要な時に教育を実施できる体制を整えています。

なおSUMCOグループでは、2018年に240回以上の社内セミナーを開催し、社員の品質管理に対する知識・意識の向上に努めました。



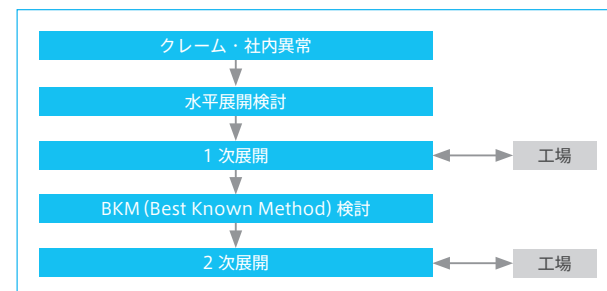
社内セミナーによる品質教育

品質問題への対応

万一、クレームや社内異常等の品質問題が発生した際には、お客様への影響を最小限とするため、発生元の製造工場が主体となって、異常の処理、原因究明、再発防止対策等を実施しています。

SUMCOグループでは、クレームや社内異常が発生した場合は、必要に応じて速やかにグループ内で水平展開を行っています。また問題に対してBKM (Best Known Method) がある場合にはそれも水平展開することで、グループ内での同種問題の再発防止を図ります。

水平展開実施フロー



顧客満足度向上への取組み

顧客満足度調査の実施

当社では、常にファーストコールのかかる会社であるため、お客様からいただいた当社の評価に関する情報をその都度関係部門に伝達して、改善活動につなげるとともに、定期的にこれらの情報をQCDS: 品質 (Quality)、価格 (Cost)、納期 (Delivery)、サービス (Service) の項目別に分析しています。分析結果は、経営および関係部門で共有し、各部門の改善計画へと展開して、顧客満足度の向上を図っています。

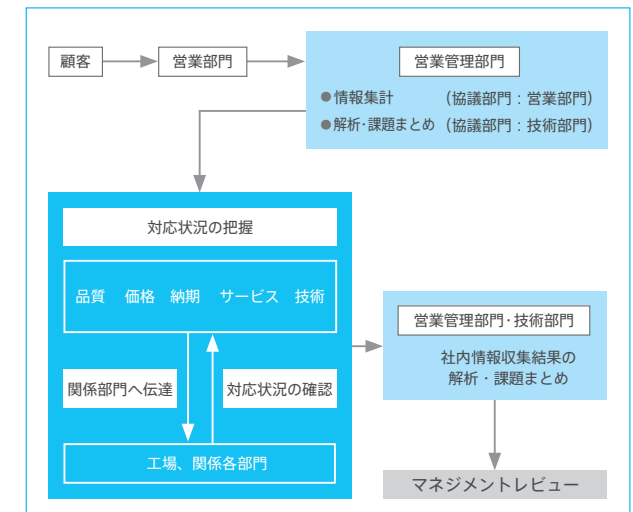
お客様とのコミュニケーション

顧客満足度の更なる向上を図るべく、当社は、お客様との双方向のコミュニケーションを通じて製品やサービスの品質向上を進めています。お客様とのコミュニケーション活動の一環として、お客様のご要望を早期かつ的確に把握し、技術開発を迅速に進め、ご要望に即した製品を確実に供給するために、技術交流会を国内外で積極的に実施しています。

技術交流会では、当社独自の技術に基づいた提案を行うとともに、当社製品のパフォーマンスの確認とフォローアップを行っています。当社はこの技術交流会を、当社の評価と信頼を確保する機会と位置付けており、技術交流会で得られるお客様の声やニーズを、当社製品の恒常的な品質改善活動に活かすとともに、お客様の高精度化要求や製品の差別化に対応した技術開発ロードマップの策定など事業計画に反映させることで、お客様における高いプレゼンスの維持・獲得を目指しています。

なお、お客様とのコミュニケーション活動に際しては、最適な情報を提供できるよう心がけています。

顧客満足度 (CS) 評価情報のフロー



安全な製品の提供

製品に含まれる化学物質の管理

当社では、法律で規制される物質およびお客様より要求される使用禁止・削減物質等の化学物質について、社内規定や標準類を定めて運用管理を行っています。

安全データシート(SDS)の提供

当社製品の化学物質の危険有害性に関する情報の伝達や安全な取扱いのために、JISZ7253に基づいた安全データシート(SDS)を提供しています。

Voice 02

品質保証部
担当部長 田中 俊郎



Q1.SUMCOの品質について、最も重要視している点は何ですか？

製品の要求仕様を満たしているのは当然ですが、SUMCO 製品の使用に際し、期待される機能を十分に満たすことが重要です。規格を満たしていても通常レベルから逸脱するものは異常品として扱い、客先でのパフォーマンスを考慮した品質の安定を目指します。

近年、リスク評価の重要性が目立っています。SUMCOにおいても、FMEA(故障モード影響解析)の更なる活用を目指し、セミナーや有効利用推進活動報告会の開催など積極的に活動しています。十分なリスク評価による品質リスク対応により不具合発生防止 (Zero Excursion Zero Defect) を目指しています。

Q2.海外を含めたグループ全体で品質管理を推進するうえで、その難しさ・やりがいについて聞かせてください。

海外では言葉など文化を形成する背景が異なり、同じ表現でもイメージが違うため、物事を進めるうえで問題となることがあります。国内でも、品種・プロセスの違いから、同じ言葉を使ってもイメージが微妙に異なります。その違いを理解し、乗り越え、共同して目的を達成した時お互いに健闘を称えあうことができると活動しています。

品質改善活動実績は、インドネシアでのIATF16949取得サポート、SUMCO方式変更手順の導入などがあります。SUMCOグループ全体の品質保証体制発展のために海外部署の協力を得ながら活動しています。



サプライチェーン

取り組む理由

企業が事業活動を行ううえで、サプライチェーンの社会的責任に対するステークホルダーの関心が年々高まっています。SUMCOグループでは、この関心の高まりに配慮し、お取引先の皆様とCSRに関する社会的要請を共有しつつ、サプライチェーンにおける人権、労働、安全、環境、倫理などに関する課題についてもお取引先の皆様とともに取り組むことが重要と考えています。

CSR 調達に対する考え方

当社は、サプライチェーンにおける社会的責任を果たすために、責任ある調達活動を推進しています。お客様に安心して製

調達に関する方針

当社の資材調達は、お取引先の皆様との相互信頼のもと、公正で合理的な取引を心がけています。

また、関連法令や社会規範の遵守、地球環境の保全等、企業の社会的責任を果たす取組みについて、お取引先の皆様のご協力を得ながら積極的に推進していきます。

1. パートナースhipに基づくお取引：お取引先さまと相互信頼に基づくより良いパートナースhipを目指します。

2. 公正なお取引：クリーンでオープンな調達活動を心がけ、広く門戸を開き、公正な取引を行います。

3. VA活動の推進：VA活動によるコスト改善、新規材料・新規技術等の提案・採用を積極的に推進します。

4. 調達活動における法令遵守：調達活動にあたり、関連法令、社会規範を遵守します。

5. 企業の社会的責任の遂行：お取引先さまも含めたサプライチェーンで、企業の社会的責任に配慮した調達活動に取り組んでいきます。

6. グリーン調達の実践：環境負荷の少ない資材の調達を推進します。

品をご使用いただくために、また、様々なステークホルダーの皆様にご満足いただくために、お取引先の皆様とともにサプライチェーンにおける諸課題を十分に共有し、これらに配慮した調達活動に取り組んでいます。

マネジメント体制

当社では、調達部門に加え、品質保証部門、CSR 担当部門、環境管理部門、安全衛生担当部門が連携して、サプライチェーンマネジメントを行っています。具体的には、後述する各種調査票の交付と回答の回収、さらに品質・CSR・環境それぞれについて監査を実施し、得られた結果をお取引先の評価に反映することで、より強固なサプライチェーンマネジメントの構築を目指しています。

CSR 調達活動

当社では、お取引先の皆様に向けて定期的に開催する説明会や以下のような調達活動を通じて、CSR 経営への自発的な取組みの推進をお願いしています。

① サプライヤーハンドブック

お取引先の皆様に当社の調達活動についての考え方をご理解いただくため、当社の調達方針や依頼事項をまとめた「サプライヤーハンドブック」にCSRに関する項目を記載し、当社の日常の調達活動に用いる調達専用ネットに掲示しています。

本ハンドブック内で、当社はサプライチェーンとしてのCSRの推進をお取引先の皆様をお願いしており、依頼すべきガイドラインとしてRBA (Responsible Business Alliance) Code of Conduct (旧称 EICC 行動規範) を挙げてCSR経営の実践にご活用いただくことに加え、二次、三次のお取引先の皆様にも同様にCSR経営の実践を展開いただくようお願いしています。

② グリーン調達ガイドライン

同じく調達専用ネットには、環境負荷の少ない製品の調達

(グリーン調達) の促進のために、法令やRoHS指令、REACH規則、顧客要求等で指定される含有禁止物質や規制物質などを定めた「グリーン調達ガイドライン」を掲示しています。

③ 原材料調査

当社では、調達部門と環境管理部門が連携し、グリーン調達ガイドラインで定める物質の不使用を確認するため、含有禁止物質証明書の提出のお願いや、各種調査票の交付と回収を定期的に行い、グリーン調達を促進しています。

④ CSR 質問状・CSR 監査

当社では、RBA Code of Conductに準拠した「CSR 質問状」を主要なお取引先に配布して各社のCSR活動への取組み状況を確認しています。調査対象は200社超であり、そのほとんどすべてから回答を回収することができています。当社では、この結果をもとに、一定数のお取引先に実地監査を含むCSR監査を定期的に行い、CSR 質問状の項目に対する遵守状況や改善状況の確認を行っています。

CSR 質問状の主要項目

1. 人権・労働	② 緊急事態への準備
① 労働の自由	例) 適切な緊急避難口・避難経路の整備、訓練の実施
例) 強制・拘束的労働の禁止	③ 労働災害・疾病の防止
② 児童労働の不使用	3. 環境保護
例) 児童労働の禁止、	① 環境法令の遵守
若年労働者の危険な業務への不従事	例) 必要な許可等の確実な取得、環境基準の遵守
③ 労働時間の限定	② 汚染の防止、廃棄物の削減
例) 労働時間、休日に関する法令の遵守	例) 廃棄物・温室効果ガスの削減、排水管理
④ 法定賃金	③ エネルギー消費と温室効果ガスの削減
例) 最低賃金に関する法令の遵守	4. 企業倫理
⑤ 人道的取扱い	① 法令の遵守
例) ハラスメント等の禁止と処罰の仕組み	例) 贈収賄ないし腐敗の禁止、内部通報制度の具備
⑥ 差別の禁止	② 取引の公正
例) 人種、国籍、性別、年齢、性的嗜好、宗教、障がい等による差別の禁止	例) 公正な取引、競争、広告に関する法令の遵守
⑦ 結社の自由	③ 情報の管理
2. 安全衛生	例) 顧客情報の適切な管理、知的財産権の保護
① 職場安全の確保	5. 事業継続
例) 免許・許可の取得と更新、個人保護具の提供	① リスクアセスメントおよびリスクマネジメント
	② 事業継続計画 (BCP)
	6. 管理システム

環境負荷の軽減に向けた取組み

当社は、先述のCSR 質問状やCSR 監査等の調査において、廃棄物の排出量削減、温室効果ガスの排出量削減、および電力使用量や水使用量、エネルギー使用量の削減などに向けた取組みを確認項目とし、数値目標を設定するなどして持続的かつ具体的な削減活動を遂行しているお取引先を評価することで、サプライチェーン全体における環境負荷の軽減を図っています。

資材調達のBCPの強化

当社では、リスクに応じた適正な在庫の確保や複数購買等の平時における事前の準備を進めています。災害や事故発生時には、直ちに影響の調査に着手するとともに、並行して調達先の振り替え、代替品の採用等、あらゆる手段を講じて調達確保に努め、生産への影響の極小化に全力を尽くすべく、必要な体制を整備しています。

1. 調達品の特性に応じた適正な在庫管理の継続：品目ごとに在庫量、保管場所、輸送方法等を都度見直します。

2. 源流調査と対応：主要品目の製造拠点・源流を調査・確認のうえ、リスクレベルに応じた対応を実施します。

3. 調達品のBCP強化と維持、見直し：主要品目ごとにリスクが発生しても適切な対応が取れるようにBCPを準備しています。

4. お取引先のリスク評価の実施：主要なお取引先に対しては、財務面や生産体制、BCPへの対応等を定期的に確認させていただき、評価結果に応じた対応を実施します。

人権の尊重

取り組む理由

SUMCOグループは、基本的人権を尊重することも企業の重要な社会的責務であると考え、「人を大切にする」企業であるべく、SUMCOグループに関わるすべてのステークホルダーの人権を尊重するため、様々な取組みを行っています。

基本的な考え方

SUMCOグループでは、「SUMCO CSR方針」において、安全・健康・快適で適正な職場の確保、人権・能力・個性の尊重、および公正で多様な働き方の実現を宣言し、従業員が活き活きと働ける職場の実現を目指しています。

この方針のもと、SUMCOグループでは、人種、宗教、性別、年齢その他の不合理な事由に基づく差別や職場でのハラスメント行為をSUMCO行動憲章や各種規定で明文をもって禁止するとともに、先述 (p.13) の内部通報窓口に加えて、各拠点にハラスメント相談窓口を設置しています。

さらに児童労働や強制労働の禁止を徹底するためかかる方針を明文化して厳に禁止するとともに、労働時間や休日、賃金等に

関する各法定基準を確実に遵守できる仕組みを構築しています。

推進体制

SUMCOグループでは、グループ会社を含めた全社委員会である人権啓発推進委員会を毎年開催し、人権啓発活動に継続的に取り組んでいます。この委員会では、各年度、人権啓発活動の方針や内容を確認しています。各拠点・グループ会社は、この方針に沿って活動を展開しており、外部専門家による講演会や視聴覚教材を用いた啓発研修等の人権啓発活動を実施しています。

人権啓発研修で取り扱った主なテーマ

- 多様性の尊重
- 高齢者と人権
- パワーハラスメント
- セクシュアルハラスメント
- 職場における妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント
- 職場におけるメンタルヘルス問題

良好な職場環境の維持・向上

当社では、全従業員に対し、定期的に各種ハラスメント教育をはじめとする人権研修を行い、職場での意識向上に努めています。

また、毎年実施しているストレス調査の集団分析結果を踏まえ、各職場において職場環境改善に向けた活動計画を策定・実施しています。

さらに、SUMCOグループでは、常に働きやすい職場環境を維持・向上するための取組みの一環として、各拠点において、職場のコミュニケーションを活性化すべく、各拠点で様々な社内レクリエーションを実施し、社員同士の交流を深めています。

ハラスメント相談窓口の設置

当社は、ハラスメント関連の相談窓口としてハラスメント相談窓口を設置しています。従業員がいつでも気軽に安心して相談できるよう①相談者のプライバシーの保護、②関係者への不利益な取扱いの禁止、③相談に対して公平に対応する、ことを3原則としています。相談窓口には男性相談員、女性相談員をそれぞれ配置するとともに、社内イントラネットに相談窓口についての情報を常時掲示して従業員への周知徹底に努めています。

なお、2018年のハラスメント相談窓口への相談件数は2件でした。

労使関係

当社は、労使間の問題については、相互理解と信頼に基づき、会社の永続的な発展と労働条件の向上に向けて話し合いを基調として解決を図ることを基本方針とし、健全な労使関係の維持に努めています。

具体的には、労使経営懇談会を原則として年2回開催して労使間のコミュニケーションを図り (情報を共有し)、労使一体となった事業運営を実施しています。

また、毎月1回生産説明会・労使懇談会を開催し、各工場においても労働組合支部と生産状況等を含む情報・意見交換を行っています。

その他、労働条件や諸制度の見直し等の重要な労使課題については、多面的・総合的・長期的な観点も踏まえ、年間を通して「労使検討委員会」を開催し、労使一体となって取り組んでいます。

人材の育成

SUMCOビジョンに掲げた「技術で世界一の会社」を目指し、新入社員から管理職・役員に至るまで、多角的なアプローチで研修の機会を提供しています。時代の変化に即して、常に社員に気づきを促し、自ら主体的に物事を考え行動できる人材の育

成に努めており、毎年、経営幹部出席のもと、若手技術者の研究成果発表会を開催し、技術者のモチベーション向上にも努めています。

また、SUMCOビジョンに掲げる「従業員が活き活きとした利益マインドの高い会社」を目指し、社員の参加意識を高める施策として、SUMCOグループ最高位の賞として「SUMCO CEO AWARD」を設け、企業価値向上に特に貢献した人・組織を毎年表彰しているほか、「TPM発表会」を毎年開催し、成果発表の機会を設けるとともに、優れた成果を表彰しています。

さらに、SUMCOビジョンに掲げる「海外市場に強い会社」の実現のため、グループ内に多様な文化・価値観を理解・尊重する意識を醸成するとともに、海外の大学への留学制度の拡充や語学教育の強化等を通じてグローバルに活躍できる人材の育成に努めています。



SUMCO CEO AWARD



若手技術者発表会

多様な人材の活用と育成

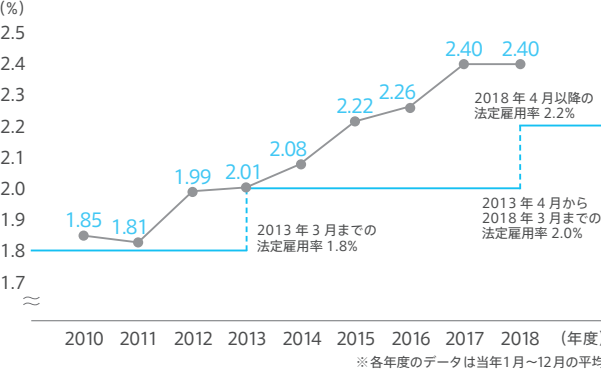
― 障がい者雇用 ―

SUMCOグループでは、2004年にSUMCOサポート株式会社を設立し、同年5月に特例子会社の認定を取得しました。

以後、同社をはじめ、SUMCOグループ各社において、障がいのある方が幅広い事業領域で活躍しています。

今後とも、SUMCOグループは、従業員各人が実力をいかんなく発揮できるよう適材適所の人材配置に努め、雇用機会の確保と就労環境の維持改善を図っていきます。

障がい者雇用率の推移 SUMCOグループ (国内)



― 高齢者の雇用 ―

満60歳の定年を迎えた従業員が豊富な経験や高度なスキル・技能を活かして働き続けられるよう、定年退職後も引き続き勤務することを希望した方を全員、最長65歳到達まで雇用する再雇用制度を設けています。

また一般職については再雇用後も定年時の処遇を維持することで、定年後も高い意欲をもって活躍できる制度としています。

― グローバル人材の活用 ―

SUMCOグループは、アメリカ・台湾・インドネシアに製造拠点を持つほか、世界各地に販売拠点を持っています。

SUMCOグループでは、現地雇用を活用し国籍を問わず優秀なグローバル人材を積極的に採用してゆくことで、グローバルカンパニーとしてさらなる成長を目指しています。

従業員数 (名)		
項目	社員	臨時従業員
単体	3,855	431
連結	8,017	
	国内	5,711
	海外	2,306

地域別従業員数 (連結) (名)	
地域名	人員
日本	5,711
北米	601
東南アジア	340
東アジア	1,343
欧州	22
合計	8,017

従業員数の内訳 (連結) (名)			
	管理職	一般社員	合計
男性	768	6,538	7,306
女性	47	664	711
合計	815	7,202	8,017



安全・健康衛生への取り組み

仕事と育児の両立支援策

当社では、子育て中の従業員により働きやすい職場環境を提供し、仕事と育児の両立を支援するため、法定よりも長い育児休暇期間の設定や、多様な短時間勤務制度を整備しています。2016年には、当社グループ最大の拠点である九州事業所伊万里地区に、事業所内保育所として「SUMCO いまり保育園」を開設しました。また伊万里地区以外の拠点では、「託児支援手当」を支給しています。

なおSUMCO いまり保育園は、新たな地域貢献の形として、「子ども・子育て支援新制度」に基づく地域型保育事業としての側面を有しており、定員の一部を地域枠として設定し、社外にも開放しています。

当社は、多様な人材がより活躍できる職場環境の実現と、さらなる地域との共生を図るため、今後も様々な取り組みを進めます。

Voice 03



結晶技術部 伊万里結晶技術課
黒木 千尋

**Q1.SUMCO いまり保育園をどのように利用していますか？
保育園は、現在または復職後のお仕事と育児との両立に、どのように活かせると考えていますか？**

現在は時短勤務（9:00～16:00）のため、平日8:30～16:30で利用しています。我が家は両実家が遠方であり、近くに頼れる人がいないので、子育てをしながら働くためには保育園を利用せざるを得ません。保育園は職場から10分程度の場所にあるため、急な発熱等による呼び出しにも対応しやすく助かっています。また、各教室にはカメラが設置しており、リアルタイムでわが子の様子をモニタリングできるので、より一層安心して預けることができます。さらに、預ける場所が保証されており保活の心配が不要で、基本的には復職が可能という点では、安心して妊娠、出産、育児休暇を過ごすことができたと思っています。

Q2.SUMCO いまり保育園以外に、育児休暇などの制度面や職場のサポートなど、助かったことがあればお聞かせください。

妊娠中のトラブルや、わが子の体調不良等により、急に休みをいただくことになった際には、上司や同僚が柔軟に対応してくださり、非常にありがたくなっています。また、育児休暇終了後も元の部署に戻していただき、大きな変化なく復職できたおかげで、今の生活に慣れるのに長期間を要せずに済みました。さらに、時短勤務の申請も躊躇なく受け入れてくださり、仕事量の配分等にも配慮してもらっている点でも、非常に働きやすい職場であると思っています。



SUMCO いまり保育園の園児たち

取り組む理由

従業員が最大限の能力を発揮して生き生きと働くために、安全と健康は欠かせません。SUMCOグループは、従業員の安全と健康衛生を確保することは、重要な社会的責任のひとつであると考えています。

SUMCOグループでは、SUMCO CSR方針において「SUMCOで働く人に、安全・健康・快適で適正な職場を確保し、人権・能力・個性を尊重して、公正で多様な働き方を実現します」と宣言し、以下の基本理念、基本方針を掲げ安全・健康衛生の取り組みを推進しています。

SUMCO グループ 安全健康衛生基本方針

基本理念

SUMCOグループは、「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念の下、管理監督者が率先垂範し、全員参加の活発なコミュニケーションにより、「安全で心身共に健康な快適職場づくり」に取り組みます。

基本方針

1. 全員参加で、関係法令をはじめ、マニュアルや作業手順等、決められたことを必ず守り守らせる職場づくりに努めます。
2. 全員参加で、労働災害・事故の真因を徹底分析し、労働災害・事故の未然防止と再発防止に努めます。
3. 全員参加で、風通しのよい職場環境づくりと心と身体健康維持増進に努めるとともに、職業性疾病の予防に努めます。
4. 全員参加で、交通モラルの高揚を図り、社会の模範となれる交通安全活動を推進します。

安全・衛生への取り組み

— 推進体制 —

SUMCOグループでは、安全・健康衛生に関する活動状況の報告、および情報交換を行い、グループの安全衛生水準の維持向上を実現することを目的とした全社安全衛生委員会を、毎年開催しています。

この全社安全衛生委員会では、安全衛生を統括する役員が出席し、グループ全体の安全・健康・衛生管理の活動状況や主要な労働災害の報告、次年度の安全衛生に関する取り組み課題・目標の審議・承認などを行っています。

また、各拠点においても、全社安全衛生取り組み課題に基づき、各年度の安全衛生方針および目標を定め、達成に向けて日々活動しています。

— 労働安全衛生活動 —

SUMCOグループでは、労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）を導入し、完全無災害を目標として、活動を展開しています。

このシステムは、事業者が従業員の協力のもとに「計画－実施－評価－改善（PDCA）」という一連の過程を定めて、継続的な安全衛生管理を自主的に行うことにより、職場の労働災害の防止を図るとともに、従業員の健康の増進および快適な職場環境の形成の促進を図り、職場における安全衛生水準の向上を実現することを目的とした安全衛生管理の仕組みとなっています。

— 主な労働災害・交通事故防止活動 —

SUMCOグループでは、労働安全衛生マネジメントシステムに従って、毎年全工場に対してシステム監査（内部監査）を実施しています。また、自主的な安全衛生活動の促進による労働災害の防止を図るとともに、健康の増進および快適な職場環境の形成の促進を図ることで、安全管理レベルの維持・向上に努めています。

また、職場で作業者が潜在的な危険を感じたときにはヒヤリ・ハット事例の報告を義務付けており、この事例報告やリスクアセスメントを通して各職場のリスク要因を抽出・特定し、危険度に応じたリスク対策を行いリスクを低減することで災害の未然防止を図っています。これらのリスク情報やその対策は、各工場の安全衛生担当者全社会議、各工場の職場安全衛生推進員による安全交流会、各工場の安全衛生委員会などの実施を通してSUMCOグループ全体で共有されています。

さらに、各工場毎に行う安全巡視や、安全防災部門や労働組合、産業医の定期的な各工場を対象とした安全巡視により、職場における安全衛生管理状況の点検と指導を行うことで、より高い安全衛生水準の実現を目指しています。

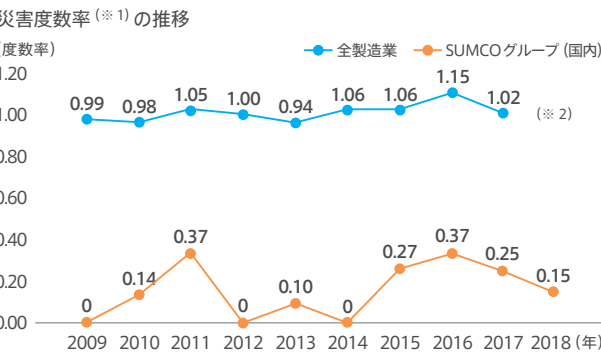
— 安全衛生に関する教育・訓練活動 —

SUMCOグループでは、労働災害や交通事故の防止を目指して、従業員教育や訓練に力を入れています。安全衛生に関するものでは、階層別の安全衛生教育はもちろん、職場安全ミーティ



ングや危険予知トレーニング(KYT)実施、安全に関するDVD視聴や「安全道場」における危険疑似体験による危険感受性向上を通じて従業員の安全意識を高めるとともに、いざという場合の対処法も併せて学ぶことで、災害の未然防止および被害の低減を図っています。

交通事故の防止も重要な課題であり、SUMCOグループでは、交通事故防止教育を行うとともに、交通事故防止に関するDVD視聴、交通事故動画KYTの実施や、ドライブレコーダーによる運転診断・指導を通じて、交通事故の防止に努めています。



※1 災害度数率＝労災死傷者数÷延べ労働時間×1,000,000
※2 2018年の全製造業の災害度数率は、本報告書発行時点で未公表

交通安全活動への参加

当社千歳工場では、毎年春と秋の交通安全運動として行われる「セーフティコール活動」に参加しています。北海道では観光シーズン到来にあわせ、レンタカーが急増することから、通行するドライバーや歩行者に交通安全の呼びかけを実施しています。

当社九州事業所では、白石地区安全運転管理者協議会の一員として、地域の小中学校を中心とした「カープミラー清掃活動(3月)」および薄暮時の早めのライト点灯を呼びかける「早めのライト点灯運動(11月)」に毎年参加し、交通安全運動を実施しています。

SUMCOテクノロジー株式会社では、野田地区安全運転管理者協議会の加盟企業として、交通事故防止キャンペーン(新年・春・秋・年末)、薄暮時のライト点灯運動(3(サン)ライト運動)に参加し、社内外での安全運転を呼びかけています。



セーフティコール活動



早めのライト点灯運動

労働・安全衛生・防災 表彰歴等(過去5年)

年月	項目	対象
2014年2月	厚生労働省 無災害記録証 第1種(700万時間)	株式会社 SUMCO 九州事業所(久原)
2014年5月	佐賀県知事感謝状 高圧ガス優良保安責任者表彰	株式会社 SUMCO 九州事業所(佐賀工場)
2015年7月	北海道労働局長表彰 奨励賞	株式会社 SUMCO 千歳工場
2016年3月	総務省消防庁消防団協力事業所に認定	株式会社 SUMCO 九州事業所(伊万里)
2016年6月	厚生労働省 無災害記録証 第2種(1050万時間)	SUMCO TECHXIV 株式会社 長崎工場
2016年10月	優秀安全運転事業所 銅賞	SUMCO TECHXIV 株式会社 宮崎工場
2017年10月	山形労働局長表彰 奨励賞	株式会社 SUMCO 米沢工場
2017年10月	宮崎防火管理等協議会 感謝状	SUMCO TECHXIV 株式会社 宮崎工場
2017年12月	日本赤十字社 功労感謝状(献血)	株式会社 SUMCO 千歳工場
2018年6月	全国危険物安全協会 危険物安全大会表彰	SUMCO テクノロジー株式会社
2018年9月	宮崎県警察本部 安全運転管理モデル事業所表彰	SUMCO TECHXIV 株式会社 宮崎工場
2018年10月	日本赤十字社 銀色有功章	SUMCO テクノロジー株式会社

健康への取り組み

SUMCOグループの健康に関する考え方

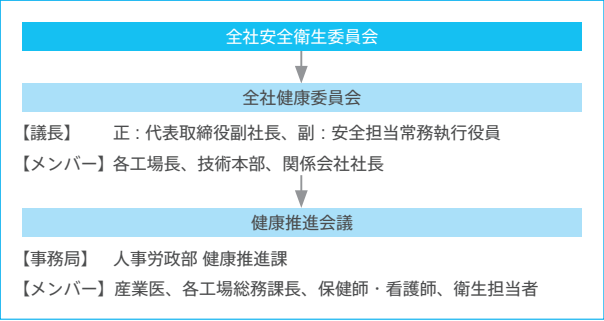
SUMCOグループでは、「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念のもと、明るく活き活きと働きがいのある職場づくりを目指し、「SUMCOグループ健康宣言」を社内外に発表しています。

健康推進体制

定期的に全社健康委員会、健康推進会議を開催し、各拠点における活動状況や健康指標の達成度などが報告され、新たな施策が検討されています。

具体的には、人事労政部に健康推進課を設置し、代表取締役副社長が健康経営責任者となり、統括産業医を中心に、SUMCOグループ各事業所の産業医、専任保健師・看護師による個別保健指導や面談、禁煙指導の実施のほか、ストレスチェックによる職場環境改善活動やメンタルヘルス研修などを行っています。

健康に関する会議体



健康増進の具体的な取り組み

当社では、従業員の一人ひとりの健康のために、各種施策を全社横断的・計画的に推進しています。

健康活動を強化するにあたり、2018年に従業員と家族へ健康への関心を深めていただくことを願う手紙を送りました。健康維持・増進は自身の日常的・自発的な活動がベースとなるため、家族ぐるみで意識を持って、健康諸活動を積極的に実践していただくことを願っています。

従業員の健康に対する取り組みが評価され、SUMCOグループは、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2019 ホワイト500」に認定されました。



SUMCOグループ健康宣言

SUMCOグループは、従業員の健康を重要な経営資源の一つととらえ、個人の自発的な健康増進活動に対する支援と、組織的な取り組みの積極的な推進により、全員が活き活きと仕事をする企業グループを目指します。

具体的な健康活動の一例

- 禁煙推進活動
 - ・建屋内全面禁煙(2018年完了)
 - ・職場対抗禁煙チャレンジレース
 - ・出前健康教室(禁煙、メンタルヘルス)
 - ・禁煙外来(一部事業所)
- メンタルヘルス
 - ・ストレスチェック結果に基づく職場環境改善活動
 - ・メンタルヘルス研修、カウンセラー等への相談体制
- 生活習慣病対策、その他
 - ・ウォーキング活動、スポーツジム契約
 - ・定期健康診断後の二次検診完全受診活動
 - ・SUMCO 転倒防止体操(就業時間内)

Voice 04



統括産業医 彌富 美奈子
すべての社員が“活き活き”と
働ける職場環境づくりを目指して

SUMCOグループの中核となる製造拠点で2003年からストレス調査の集団分析結果を使用した職場環境改善活動がスタートし、全社にその活動が広がりました。さらに2007年より“活き活き”(=ポジティブメンタルヘルス)の指標としてワークエンゲイジメントをストレス調査項目に加えて、社員一人ひとり、職場毎にフィードバックしています。今年17年目を迎えるこの職場環境改善活動には、シリコンサイクルなどの外的要因の影響を強く受け、また高い技術開発力が要求される半導体素材メーカーとして、“活き活き”と働ける持続的な職場づくりが求められた背景があります。

障がいの有する社員の方に対しても、主治医、障がい者職業センターのような公的機関とも連携し、関係者が相談しながら障がい特性にあわせた配慮や支援を行うことで、すべての社員が個々の能力を発揮して“活き活き”と働けるような職場づくりを目指しています。

地域に根差した社会貢献活動

取り組む理由

SUMCO グループは、地域と共生し、地域に貢献することは、企業の社会的責任のひとつであると考えています。
SUMCO グループでは、SUMCO CSR 方針において「SUMCO は、様々な文化・歴史を尊重し、社会および地域の皆様と交流を広げて参ります。」と宣言し、「良き企業市民」として地域に貢献できる企業であるために、様々な活動を行っています。

清掃活動・環境保全活動への参加

当社千歳工場では、工場が所在する千歳臨空工業団地内の幹線道路沿い約 1.5km にわたり、投棄された空き缶やごみ、落ち葉等の清掃活動を実施しています。特に昨年は北海道では珍しく台風が上陸し、落ち葉が道路一面を覆うといったこともありましたが、タイムリーな清掃により歩行者が気持ちよく利用していただけるよう、今後も活動を継続してまいります。

当社JSQ 事業部は、秋田市が主催する地域住民および近隣企業等による「雄物川流域一斉清掃」に毎年参加しています。



雄物川流域一斉清掃

当社米沢工場は、工業団地の立地企業でつくる「八幡原企業協議会」の一員として、工業団地内道路の中央分離帯に季節の花を植える活動や、工業団地内主要幹線道路沿いの清掃活動を行うなど、地域の環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

SUMCO TECHXIV 株式会社長崎事業所では、「大村湾をきれいにする会」が主催する大村湾沿岸一斉清掃に、毎年家族を伴った多数の従業員が参加しています。



中央分離帯の花壇の手入れ



大村湾沿岸一斉清掃

SUMCO TECHXIV 株式会社宮崎工場においても、近隣企業と協力して「清武町 KINRIN クリーン活動」と銘打った地域清掃活動を毎年継続的に実施しているほか、清武川の環境保全活動にも地域と連携して取り組んでいます。

SUMCO テクノロジー株式会社では、江戸川河川事務所および野田市近隣の自治体が主催する「江戸川クリーン大作戦」に毎年参加し、江戸川河川敷・堤防・側溝に投棄された空き缶・ビン等の回収・清掃活動を実施しています。また、2 ヶ月ごとに工場構内および隣接した市道・歩道のクリーン作戦を実施し、工業団地内の清掃活動を行っています。

緑化振興への取り組み

当社千歳工場では、降雪シーズンを終えた 6 月に、市の緑化振興財団（ちとせ環境と緑の財団）主催の「花いっぱいコンクール」にエントリーし、工場周辺道路のグリーンベルトにマリーゴールドやサルビアといった彩りのある花を植え、周辺環境の美化に努めています。

SUMCO サポート株式会社※ 野田業務課では、自主活動による花壇の造成や種苗の植え付けといった「花プロジェクト」活動を行い、野田地区を訪れるお客様や従業員を和ませています。

※ SUMCO サポート株式会社は、障がい者雇用を目的に設立された当社の特例子会社です。

障がい者授産施設支援

当社米沢工場では、工場や従業員の自宅から出るペットボトルや空き缶をリサイクル業者経由で障がい者授産施設に提供し、就労支援に協力しています。また、リサイクル業者から受け取った買取代金で施設に役立つものを購入し、定期的に寄付しています。

福祉施設の防災訓練への参加

SUMCO TECHXIV 株式会社長崎事業所では、「社外救助隊」を組織し、近隣の社会福祉施設での火災に備え、毎年、大村消防署員指導のもと、合同救出訓練を行っています。



福祉施設の防災訓練

女性による安全衛生パトロールへの参加

SUMCO TECHXIV 株式会社長崎事業所では、女性社員の代表が、長崎労働局が編成した女性のための安全衛生パトロール隊「輝く女性を応援し隊!」の一員として、県内の事業所や工事現場のパトロールを行っています。



女性による安全衛生パトロール

地元高校との交流

SUMCO TECHXIV 株式会社長崎事業所では、工場立地時より継続して地元高校と交流を持っており、毎年、生産工程や受電設備の特高監視室の見学、インターンシップの受入れ等を行っています。また、地元の高校からの要請を受け、社員を派遣して、半導体についての授業を行っています。



地元高校への社員講師の派遣

スポーツ行事への参加・協賛

当社は地域のスポーツ行事への参加・協賛も行っております。当社九州事業所は、毎年、伊万里ハーフマラソン大会への協賛を行っています。2019 年大会には全国から 3,800 名以上が参加し、初春の伊万里路を駆け抜けました。

また、九州事業所の SUMCO 伊万里駅伝チームは、2019 年 1 月 27 日に開催された第 72 回東西松浦駅伝大会（佐賀新聞社主催）に参加し、2 年連続 13 回目の優勝を大会新記録で飾りました。この東西松浦駅伝大会は、長い伝統を持ち、地域や職域のチームが数多く参加する、地域の活性化に貢献している行事です。



第72回東西松浦駅伝大会
(佐賀新聞社提供)

Voice 05

国立大学法人 九州工業大学
次世代パワーエレクトロニクス研究センター
センター長
大学院生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻
大村 一郎 教授



Q1.SUMCO 共同研究講座について、取り組んでいる内容やその意義についてお聞かせください。

九州工業大学では、2017 年度より SUMCO と共同で学内に研究講座を立ち上げ、「高品質パワー半導体ウェーハ評価方法」というテーマで、専任の金田特任教授を中心に SUMCO の研究者と本学次世代パワーエレクトロニクス研究センターの研究者が共同で複数の研究プロジェクトを行っています。特に、パワー半導体関連技術動向を共有するとともに、高精度なウェーハ品質評価技術の開発やシミュレーション技術の応用について重点的に研究を進めています。また SUMCO の若手人材の育成にも積極的に協力させていただいています。本共同研究講座の設置により企業と大学の間で課題が共有化され、出口を見据えた優れた成果の創出が可能になります。

Q2.SUMCO では産学連携や地域貢献への取り組みを進めておりますが、こうした活動についてどのように感じられますか。

2018 年度、次世代パワーエレクトロニクス研究センターはパワー半導体の研究で地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞いたしました。また SUMCO は、CO₂ 排出削減に貢献するパワー半導体の製造で欠かせない高品質ウェーハの世界的トップメーカーです。両者が長期的な視点で連携することで、九州地区の半導体技術や低炭素化技術のさらなる高度化や、この分野における人材育成を強力に推し進め、地球温暖化防止や電力の有効利用という社会的課題に大きく貢献できると思います。

地域行事への参加

当社米沢工場では、米沢を代表する冬の祭である「上杉雪灯籠まつり」において、米沢の冬の風物詩でもある雪灯籠を毎年製作し、地域の活性化に貢献しています。

当社九州事業所では、伊万里市に事業所を構える企業として地域の行事を盛り上げるため、毎年秋に催される「いまり秋祭り 市民総踊り」に参加し、地域の活性化に貢献しています。



いまり秋祭り 市民総踊りに参加

また、当社JSQ事業部は、社員が会長を務める秋田市茨島地区の「茨島竿燈会」の活動を支援しています。この茨島竿燈会は、毎年、「秋田竿燈まつり」で演技を披露しており、今年の「竿燈妙技会※」では惜しくも入賞を逃しましたが、「夜竿燈※」では勢いのある差し手の演技を披露し、全国から集まった観客から大きな声援が送られました。

※「竿燈妙技会」は、秋田竿燈まつり期間の昼間に行われる竿燈や囃子の技術の保存を目的に行われる竿燈の演技を競う競技会です。夜に行われる竿燈を「夜竿燈」と呼びます。



JSQ 事業部内での「竿燈のお披露目」

Voice 06

SUMCO Europe Sales Plc (SES)
Giles Barfield
Senior Manager



Please let us know the details of your donation and support activities to Foodbank conducted at 2018.

In SES we decided, as part of honouring SUMCO's mission statement "to be a good neighbour in our community", to do something that would help people in our community. We chose to volunteer at a foodbank as this should help a large portion of some of the most vulnerable people in the community. Foodbanks are volunteering organisations that collect donated food and distribute it to the poor and needy.

Their services are in more demand than ever due to the overall economic climate. SES worked closely with a foodbank in South London, about 7.5km away from our office, to find out when was the best time to support them.

Foodbanks tend to receive a large amount of donations in the run-up to Christmas, but these donations have to last for most of the following year. SES agreed to send two teams of volunteers on one of the foodbank's busiest days of the year for donations.

At this time the few members of staff are overrun with donations and struggle to keep things organised.

Armed with a lot of energy and some 5S techniques, the members of SES went ahead to help the foodbank reorganise the collected food into the various food groups as well as put it in date order to ensure that the shortest sell by date food was used first and that nothing went to waste.

The foodbank was exceptionally pleased with SES's help as they would never have had the time to do it themselves during such a busy period. SES members brought some of their own food to donate to the foodbank as well as donations to ensure that the foodbank was able to continue supporting the local community when the Christmas stocks had been used up.

All SES members thoroughly enjoyed the experience.



SES による Foodbank 支援活動

サイトデータ

SUMCO グループの事業所・工場の ISO14001 の認証取得状況、大気・水域への排出状況について報告します。

事業所・工場名		九州事業所（長浜）	九州事業所（久原）	九州事業所 佐賀工場
業務内容		ウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造
ISO14001:2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2020.1.11	2020.1.11	2020.1.11

大気		測定結果（規制値）		
窒素酸化物（NOx）	ppm	ボイラー 89 (150)	ボイラー 51 (150)	ボイラー 67 (110)
硫黄酸化物（SOx）	m³N/h	ND（K 値規制 17.5）	ND（K 値規制 17.5）	／
ばいじん	g/m³N	ボイラー 〃（〃）	ボイラー 〃（〃）	ボイラー ND (0.001)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD ※1 （生物学的酸素要求量）	mg/ℓ	／	／	／	／	10	7.6
COD ※2 （化学的酸素要求量）	mg/ℓ	30	9.7	30	7.1	／	／
浮遊物質量（SS）	mg/ℓ	30	12	30	4	25	5
N - ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	5	ND	5	ND	3	ND
沃素消費量	mg/ℓ	／	／	／	／	／	／
ふっ素化合物	mg/ℓ	8	5.4	8	3.38	3	0.99
アンモニア性窒素	mg/ℓ	80	15	80	24	100	14.1
硝酸性窒素	mg/ℓ						
亜硝酸性窒素	mg/ℓ						
窒素含有量（T-N）	mg/ℓ	120	36	120	28	60	18.2
クロム含有量（T-Cr）	mg/ℓ	0.2	ND	0.2	ND	0.2	ND
燐含有量（T-P）	mg/ℓ	12	0.41	12	0.36	8	1.52
砒素	mg/ℓ	0.05	ND	0.05	ND	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND

※ 1. 処理水を河川に排出する場合は、生物学的酸素要求量（BOD）の規制を受けます。

※ 2. 処理水を海洋に排出する場合は、化学的酸素要求量（COD）の規制を受けます。

※ 数値は、年間最大値を記載。

「／」は規制対象外

「－」は対象物質不使用のため測定せず

「ND」は検出されず



サイトデータ

事業所・工場名		野田事務所	米沢工場
業務内容		ウェーハの製造	単結晶の設計・開発・製造
ISO14001:2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2020.1.11	2020.1.11

大気		測定結果 (規制値)	
窒素酸化物 (NOx)	ppm	ボイラー 77 (260)	ボイラー / (/)
硫黄酸化物 (SOx)	m³N/h	0.025 (K 値規制 9.0)	/
ばいじん	g/m³N	ボイラー 0.015 (0.3)	ボイラー / (/)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	25	22.1	600	13
COD (化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	20 ^{※1}	19	/	/
浮遊物質 (SS)	mg/ ℓ	50	13	600	46
N - ヘキサン抽出物質	mg/ ℓ	3	ND	5	0.6
沃素消費量	mg/ ℓ	/	/	220	2.1
ふっ素化合物	mg/ ℓ	8	7.3	8 ^{※2}	1.5
アンモニア性窒素	mg/ ℓ	100	10.3	380	170
硝酸性窒素	mg/ ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ ℓ				
窒素含有量 (T-N)	mg/ ℓ	30	24	/	/
クロム含有量 (T-Cr)	mg/ ℓ	1	ND	0.5	ND
燐含有量 (T-P)	mg/ ℓ	2	0.2	/	/
砒素	mg/ ℓ	0.05	ND	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ ℓ	0.1	ND	0.1	/

※ 1. 野田事務所においては、東京湾総量規制の適用を受けるため化学的酸素要求量 (COD) の規制も受けます。
※ 2. 米沢工場は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。(下水処理場からの放流先：河川) これを受けて、ふっ素化合物規制値は8mg/ℓとなっています。

事業所・工場名		千歳工場	JSQ 事業部
業務内容		ウェーハの設計・開発・製造	石英ルツボ 設計・開発・製造
ISO14001:2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2020.1.11	2020.1.11

大気		測定結果 (規制値)	
窒素酸化物 (NOx)	ppm	ボイラー / (/)	焼成炉 / (/)
硫黄酸化物 (SOx)	m³N/h	/	/
ばいじん	g/m³N	ボイラー / (/)	焼成炉 0.09(0.2)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	600	1.4	160	24
COD (化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	/	/	/	/
浮遊物質 (SS)	mg/ ℓ	600	8	200	24
N - ヘキサン抽出物質	mg/ ℓ	5	ND	5	ND
沃素消費量	mg/ ℓ	/	/	/	/
ふっ素化合物	mg/ ℓ	8	4.3	8 [※]	2.9
アンモニア性窒素	mg/ ℓ	/	/	100	3.3
硝酸性窒素	mg/ ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ ℓ				
窒素含有量 (T-N)	mg/ ℓ	/	/	120	4.9
クロム含有量 (T-Cr)	mg/ ℓ	2	ND	2	ND
燐含有量 (T-P)	mg/ ℓ	/	/	16	0.29
砒素	mg/ ℓ	/	/	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ ℓ	0.1	/	0.1	ND

※千歳工場は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。(下水処理場からの放流先：河川) これを受けて、ふっ素化合物規制値は8mg/ℓとなっています。



サイトデータ

事業所・工場名		SUMCO TECHXIV 株式会社 長崎事務所	SUMCO TECHXIV 株式会社 宮崎事務所
業務内容		単結晶およびウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造
ISO14001:2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2020.1.11	2020.1.11

大気		測定結果 (規制値)	
窒素酸化物 (NOx)	ppm	ボイラー 71 (260)	ボイラー 65 (150)
硫黄酸化物 (SOx)	m³N/h	0.004 (K値規制 17.5)	/
ばいじん	g/m³N	ボイラー 0.01 (0.3)	ボイラー ND (0.1) ※ 2

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	600	86.8	25	4.3
COD (化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	/	/	/	/
浮遊物質 (SS)	mg/ ℓ	600	21	30	3
N - ヘキサン抽出物質	mg/ ℓ	5	ND	5	ND
沃素消費量	mg/ ℓ	/	/	/	/
ふっ素化合物	mg/ ℓ	15 ※ 1	10.3	8	1.7
アンモニア性窒素	mg/ ℓ	380	64.7	100	11.0
硝酸性窒素	mg/ ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ ℓ				
窒素含有量 (T-N)	mg/ ℓ	240	89.4	120	5.4
クロム含有量 (T-Cr)	mg/ ℓ	2	ND	0.2	ND
燐含有量 (T-P)	mg/ ℓ	32	0.18	16	0.03
砒素	mg/ ℓ	0.1	0.004	0.1	/
トリクロロエチレン	mg/ ℓ	0.1	ND	0.1	/

※ 1. STC 長崎は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。(下水処理場からの放流先：海域) これを受けて、ふっ素化合物規制値は15mg/ ℓとなっています。
※ 2. STC 宮崎の大気ばいじんの測定頻度は1 回/ 5 年へ改訂されています。(次回 2023 年)

事業所・工場名		SUMCO Phoenix Corporation アルバカーキ工場	SUMCO Phoenix Corporation フェニックス工場
業務内容		ウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造
ISO14001:2015 認証取得状況	審査機関	DNV	DNV
	取得時期	2000.6.19	2000.6.19
	更新日	2021.6.30	2021.6.30

大気		測定結果 (規制値)	
窒素酸化物 (NOx)	ton/y	1.26 (10.2)	13.11 (24.6)
硫黄酸化物 (SOx)	ton/y	0.01 (0.34)	0.41 (1.25)
PM10 (10μ 以下粒子状物質)	ton/y	0.09 (0.84)	0.71 (2.5)

水質		規制値	測定結果 ※	規制値	測定結果
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	/	/	/	/
COD (化学的酸素要求量)	mg/ ℓ	/	/	/	/
砒素	mg/ ℓ	2.09	/	0.13	0.013
カドミウム	mg/ ℓ	/	/	0.047	ND
銅	mg/ ℓ	/	/	1.5	0.067
シアン化物	mg/ ℓ	0.5	/	2	ND
ふっ素化合物	mg/ ℓ	36	/	/	/
鉛	mg/ ℓ	1.0	/	0.41	ND
水銀	mg/ ℓ	0.004	/	0.0023	ND
モリブデン	mg/ ℓ	2.0	/	/	/
セレン	mg/ ℓ	0.46	/	0.1	ND
銀	mg/ ℓ	5.0	/	1.2	ND
亜鉛	mg/ ℓ	2.2	/	3.5	ND
浮遊物質	mg/ ℓ	/	/	/	/

※ アルバカーキ工場では、ph と水流量の測定のみが要求されており、アルバカーキ市が定期的に排水の測定を行っています。



お問い合わせ先
株式会社SUMCO 総務部 法務・CSR室
〒105-8634 東京都港区芝浦 1-2-1 シーバンスN館
E-mail : sumco-csr@sumcosi.com

